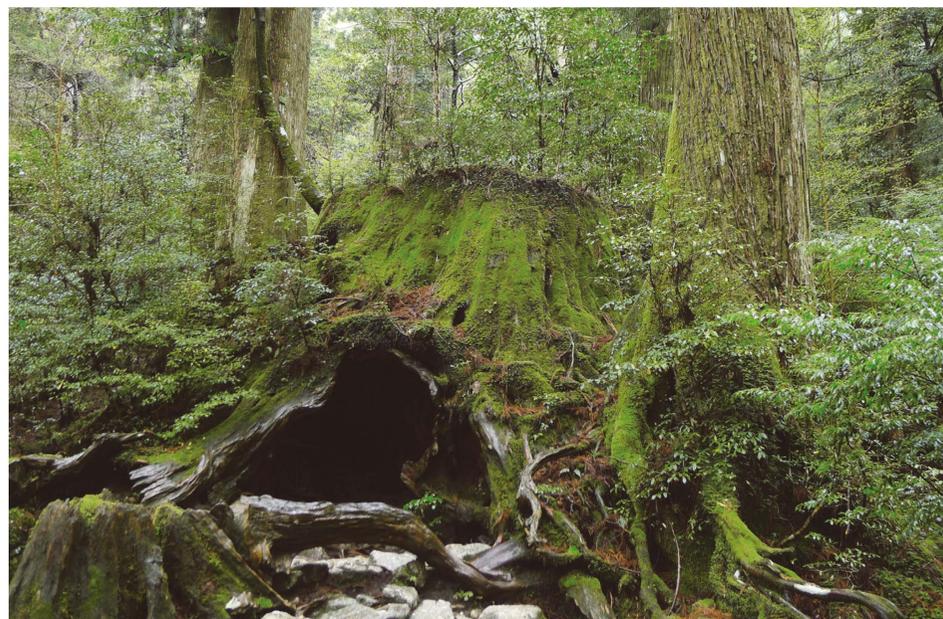




SUSTAINABLE TOURISM

サステナブルな観光に資する好循環の 仕組みづくりに向けた事例集

～観光庁「令和5年度サステナブルな観光に資する好循環の仕組みづくりモデル事業」の内容に基づいて～



目次

はじめに	2		
実施事業一覧	3		
第1部			
考え方			
サステナブルな観光コンテンツの考え方	4		
サステナブルツーリズムとは	5		
サステナブルな観光コンテンツによる好循環の仕組みのモデル	6		
サステナブルな観光に資する好循環の仕組みづくりのための 3つの観点と9つのポイント	7		
「観点A サステナブルな観光コンテンツの造成と提供」	8		
「観点B 好循環の仕組みづくり」	9		
「観点C サステナブルツーリズムを推進する体制の強化」	10		
地域やコンテンツの特色に応じた “サステナブルな観光コンテンツ”造成に向けたアプローチ	11		
第2部			
事例編			
好循環の仕組みづくりの全体像	12		
事例01 寄付型トレイル&トレインの確立に向けた体制強化	14		
事例02 雪国文化を100年後につなげるロングトレイルコンテンツ	15		
事例03 散居村の景観と伝統の手仕事を未来につなぐ リジェネラティブツーリズム	16		
事例04 山岳・森林・里山・畑の資源循環をつなぐ 旅行者参加型保全コンテンツ	17		
事例05 地域・旅行者・住民が良好な関係を育むレスポンシブル ツーリズムの推進	18		
事例06 旅行者が地元農家とともに「草原の守り人」となる 草原保全アクティビティ	19		
事例07 放置竹林の現状を学び、その活用を促す中長期滞在型 スタディプログラム	20		
事例08 オーバーツーリズムに対応するロングテールコンテンツの 高付加価値化	21		
事例09 保全ツアーの磨き上げによる奇跡の森の保全と 利用の地域好循環の構築	22		
事例10 地域の文化と環境に配慮したローカルサステナブル ツーリズム	23		
事例11～14 実施概要一覧①	24		
事例15～18 実施概要一覧②	25		
第3部			
ナレッジ編			
サステナブルツーリズム推進のうえで参考となるポイント	26		
A サステナブルな観光コンテンツの造成と提供			
A1 地域資源への理解と配慮あるコンテンツ造成及び提供・販売	28		
A2 コンテンツ運営の人材づくり	29		
A3 コンテンツ販売・運営の自走化	30		
B 好循環の仕組みづくり			
B1 地域資源の利用と保全をつなげる仕組み	31～33		
B2 地球環境保全への寄与	34		
B3 地域活性化に向けた貢献	35		
C サステナブルツーリズムを推進する体制の強化			
C1 推進主体とステークホルダーの明確化	36～37		
C2 方針の策定	38		
C3 意識統一と担い手の育成及び意識醸成	39		
おわりに	40		

観光庁「令和5年度サステナブルな観光に資する好循環の仕組みづくりモデル事業」で実施した内容に基づき、本事例集を作成しています。

はじめに

豊かな自然や文化、歴史、生業、食などの
様々な魅力がある日本。

さらに、地域に根差し、自然と共生しながら
営まれてきた暮らしそのものも、
いま世界で注目されるサステナビリティを
体現するものとして大きな魅力になります。

引き継がれてきた地域の宝や日々の暮らしを
観光資源として活用し、
そうした観光利用が、地域の宝の保全や
地域づくりにもしっかりと貢献する。

そんな好循環の仕組みをつくることで、
地域の価値を高め、地域を豊かにする
様々な取組が始まっています。

この事例集が、各地域の特色を活かした
持続可能な観光を推進するための
一助となれば幸いです。



実施事業一覧

00 : 当事業で取り組んだ18地域の事例番号

事例01 (P.14・37・38・39)

岩手県/久慈市等
(特非)久慈広域観光協議会
みちのく潮風トレイルを活用したトレイル&トレイン

事例02 (P.15・32・36・37・39)

新潟県/湯沢町等
(一社)雪国観光圏
エコロッジを拠点にしたロングトレイル活性化事業

事例03 (P.16・30・32・34・37)

富山県/砺波市等
(一社)富山県西部観光社 水と匠
「地域再生ツーリズム」を散居村の保全・継承につなげる仕組みづくり

事例04 (P.17・32・35・37)

山梨県/北杜市等
(一社)八ヶ岳ツーリズムマネジメント
美しい景観を守る好循環型モデル事業

事例05 (P.18・31・32・35・37)

岐阜県/白川村
岐阜県白川村
白川村の大切を繋ぐレスポンスブルツーリズム実践事業

事例06 (P.19・28・32・37)

熊本県/阿蘇市
阿蘇カルデラツーリズム推進協議会
阿蘇カルデラ「草原の王冠」の好循環な体制構築

事例07 (P.20・29・34・37)

鹿児島県/薩摩川内市
(株)薩摩川内市観光物産協会
放置竹林を再生する「バンブフル(Bambooful)・ツーリズム」の推進

事例08 (P.21・29・37)

鹿児島県/屋久島町
(一社)屋久島アカデミー
世界自然遺産「屋久島」観光のロングテール化実証事業

事例09 (P.22・31・32・33・37)

沖縄県/東村等
やんばる「保全と利用」体験型コンテンツ開発実行委員会
やんばる保全ツアーの磨き上げによる地域好循環創出



事例12 (P.24・32・37)

埼玉県/飯能市
(一社)奥むさし飯能観光協会
学生・地域と連携した循環型人材育成による森林活用保全事業

事例13 (P.24・32・37)

神奈川県/箱根町
箱根DMO((一財)箱根町観光協会)
箱根におけるサステナブルな観光コンテンツ強化モデル事業

事例14 (P.24・37)

長野県・岐阜県/松本市・高山市
(一社)松本市アルプス山岳郷
北アルプス・トラバースルート循環型システム構築事業

事例15 (P.25・37)

岐阜県/下呂市
(一社)下呂温泉観光協会
共感性観光地域づくり「下呂市エコミュージアム構想」構築事業

事例16 (P.25・32・37)

愛媛県/大洲市
(一社)キタ・マネジメント
大洲城下町サステナブルツーリズムのシステム構築事業

事例17 (P.25・37)

大分県/別府市等
(株)松秀
神仏習合文化の食楽ガストロノミー造成・人材育成事業

事例18 (P.25・37)

沖縄県/竹富町
竹富町西表島エコツーリズム推進協議会
西表島の海域・海岸域の低負荷型体験による好循環創出

事例10 (P.23・37・38)

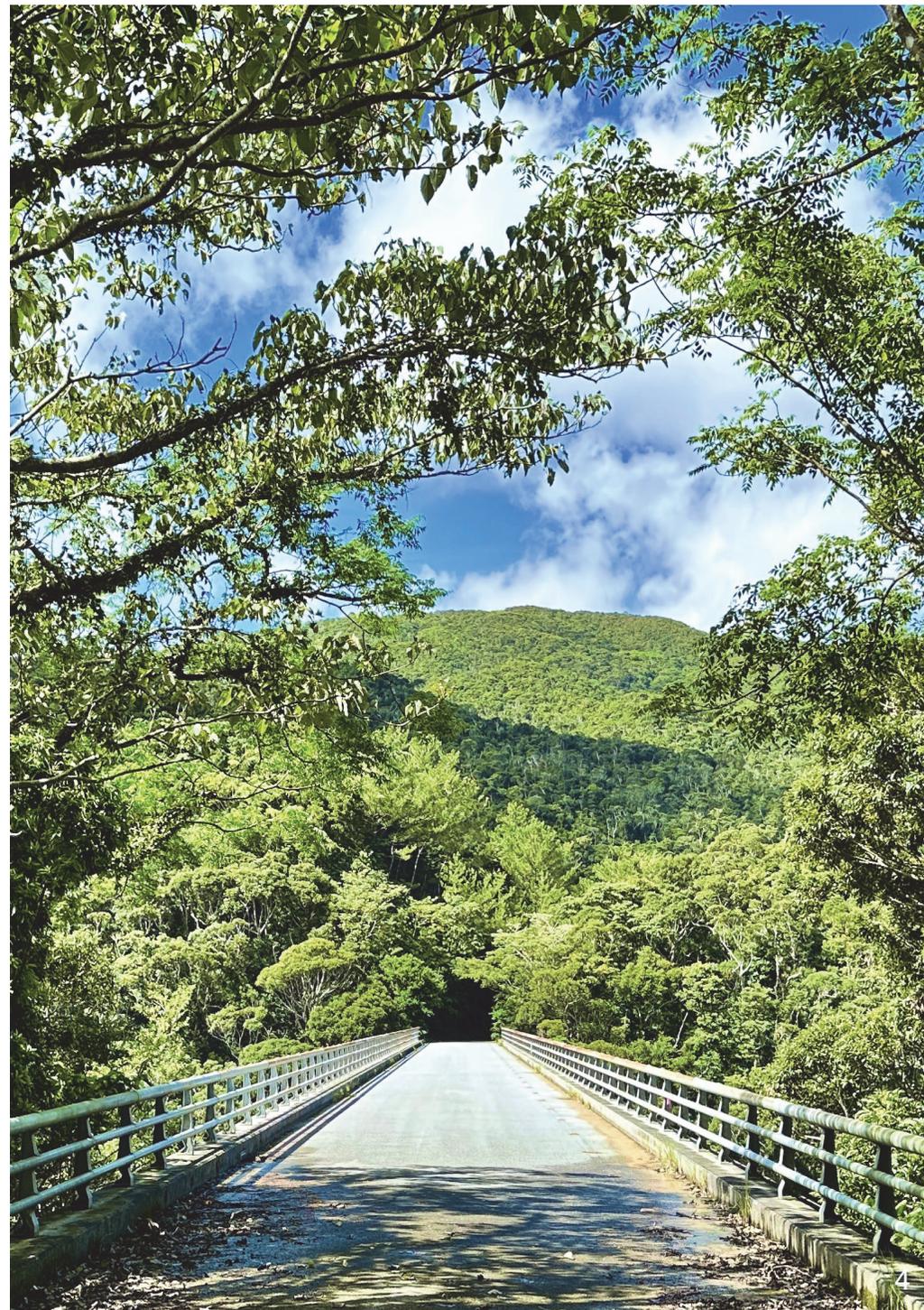
沖縄県/宮古島市
(一社)宮古島観光協会
島と友(ゆー)を結ぶローカルサステナブルツーリズム

事例11 (P.24・37)

群馬県/片品村等
(一社)片品村観光協会
山小屋魅力化と宿泊者のデッドタイムを活用した保全活動推進事業

第1部 考え方

～サステナブルな
観光コンテンツの考え方をご紹介～



サステナブルツーリズムとは

サステナブルツーリズムとは、国連世界観光機関（UN Tourism）によれば「訪問客、業界、環境及び訪問客を受け入れるコミュニティのニーズに対応しつつ、現在及び将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮する観光」を意味しておりその社会の中には文化的要素も含まれています。

旅行者、観光関係事業者、受け入れ地域にとって、「経済」「社会文化」「環境」の観点で、持続可能かつ発展性のある観光を目指すことになります。

持続可能な好循環の仕組みや価値の確立に向けて

コロナ禍を経て世界的に持続可能な観光（サステナブルツーリズム）に対する配慮や意識が高まっています。また、サステナビリティに関心の高い旅行者は、地域の本質に触れる深い体験価値や、観光を通じた地域への貢献を重視する傾向が強いとされています。

こうしたニーズを満たすだけでなく、我が国の豊富な地域資源を未来に継承していくためには、旅行者が自然・文化・歴史・産業など地域の本質を味わいながら、地域への貢献を実感できるコンテンツを造成するとともに、旅行者の観光行動による恩恵を地域の経済・社会・環境へ還元する好循環を加速していくことが重要です。

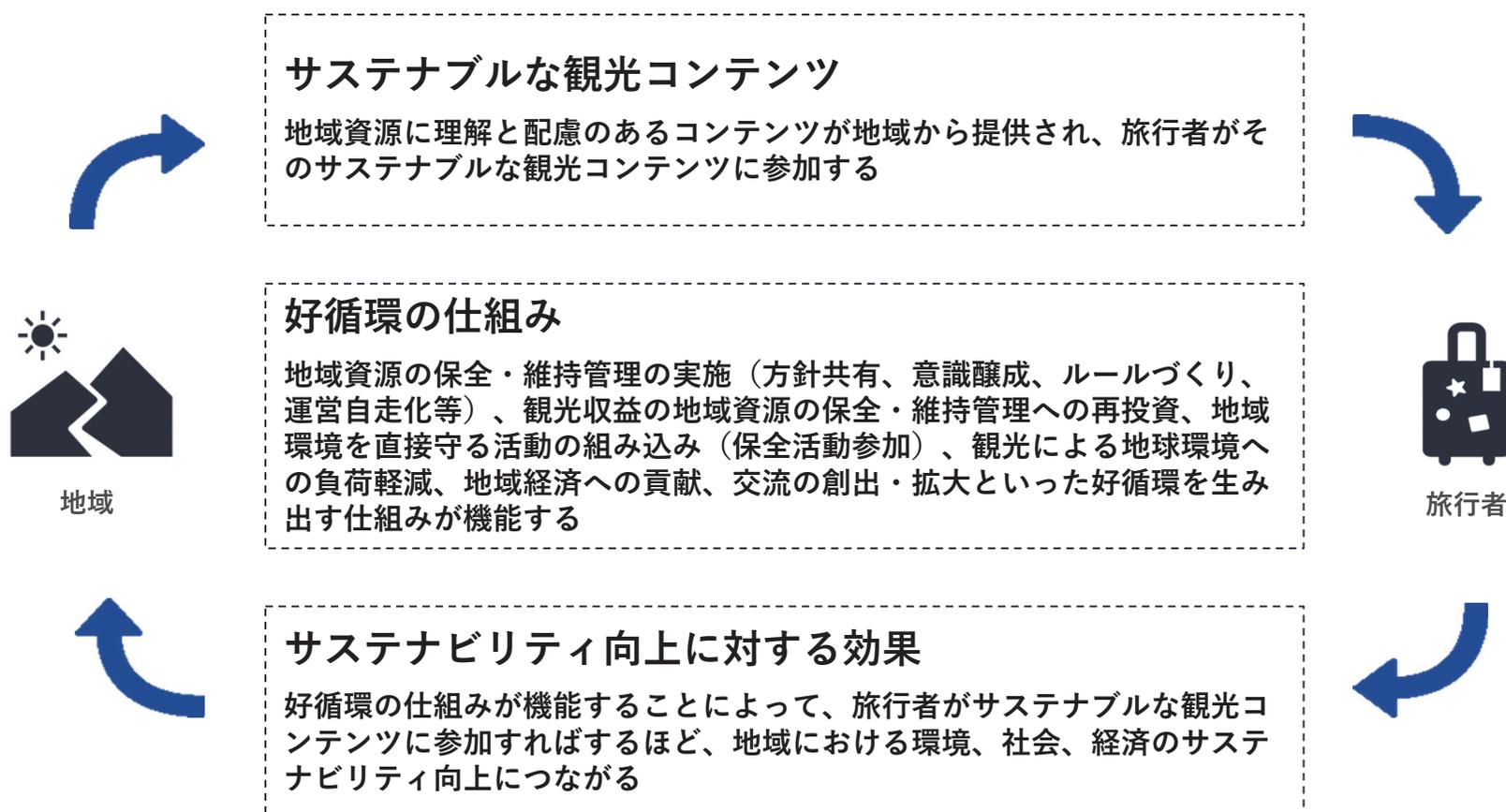
サステナブルな観光コンテンツの実践を通じて目指すこと

観光コンテンツとは地域資源を活用して旅行者に提供する滞在・体験のプログラムやツアーのことを主に指しますが、持続可能な観光の考え方を踏まえて実践することにより、持続可能な観光地経営の進展につなげ、ひいては持続可能な地域づくりそのものに寄与することが重要です。



サステナブルな観光コンテンツによる好循環の仕組みのモデル

旅行者がサステナブルな観光コンテンツに参加することにより、好循環の仕組みが機能し、地域のサステナビリティ向上に対する効果が生まれます。



サステナブルな観光に資する好循環の仕組みづくりのための3つの観点と9つのポイント

好循環の仕組みづくりを進めるためには、**仕組みづくりそのものに加え、魅力的なコンテンツの造成・販売や、サステナブルツーリズムを推進するマネジメント体制の強化**も必要となります。

地域においてサステナブルな観光コンテンツを強化し、好循環の仕組みづくりを行ううえで、**重要な3つの観点と9つのポイント**を整理しました。

A サステナブルな観光 コンテンツの造成と提供

- 地域が目指す方針を反映した高付加価値なコンテンツを確立し、提供が自走化する
- 地域の方針に賛同する旅行者が訪れる

- A1 地域資源への理解と配慮あるコンテンツ造成及び提供・販売
- A2 コンテンツ運営の人材づくり
- A3 コンテンツ販売・運営の自走化

旅行者と地域の
双方が創る関係

旅行者の
ニーズへの対応

C サステナブルツーリズム を推進する体制の強化

- 観光が地域にもたらすプラスの影響を享受する地域全体の関係者の体制ができ、地域住民の理解が向上する

- C1 推進主体とステークホルダーの明確化
- C2 方針の策定
- C3 意識統一と担い手の育成及び意識醸成

B 好循環の 仕組みづくり

- 地域の仕組みづくりに賛同する旅行者が参画し、地域への貢献・還元が継続的になされる

- B1 地域資源の利用と保全をつなげる仕組み
- B2 地球環境保全への寄与
- B3 地域活性化に向けた貢献

サステナブルな観光に資する好循環の仕組みづくりのための3つの観点と9つのポイント

「観点A サステナブルな観光コンテンツの造成と提供」

旅行者のニーズや知的好奇心を踏まえ、**地域の本質を味わいながら観光利用と地域資源の保全を両立する体験等のコンテンツを造成・提供**していくために、以下の**3つのポイント**と**5つの要素**が重要です

A1：地域資源への配慮ある コンテンツ造成及び提供・販売

サステナブルな観光コンテンツとして、地域の伝統文化や人々の暮らし、自然との共生の考え方等**地域の本質を体感できるもの**が含まれており、コンテンツ造成にあたっては、**旅行者が楽しみながら地域の本質や価値を体感・共有できる内容**を、**地域資源の持続可能性に配慮・寄与しながら検討**していくことが必要です。

地域が目指す方向性に賛同する旅行者との**継続的な関係構築**につながるような、マーケティング、販路構築、プロモーション等の取組も重要です。

自然・文化等の
地域資源の
本質を感じられる
コンテンツ

効果的な提供・販売

A2：コンテンツ運営の人材づくり

サステナブルな観光コンテンツを持続的に運営していくためには、**旅行者が地域の本質・価値・課題等を理解・共感することを積極的に推進**する役割を担う人材育成が重要です。

人材育成の候補としては、観光業に関わりのある**地域の有償・無償ガイド、コンテンツの企画・運用に関わるコーディネーター、通訳案内士**などがいます。

その他にも、地域資源に詳しい**地域住民、伝統産業や農林水産業などの従事者**も考えられます。

旅行者に向けて地域
理解を促す人材・
コンテンツに係わる
人材の育成

A3：コンテンツ販売・運営の自走化

実証事業は単発的・トライアル的であるので、それを基盤に**自走を目指した中長期的計画**を立てていくことが重要です。

具体的には、補助金等に頼る必要がないよう**コンテンツの売上で運営必要コストが賄えていること**や、**今後数年間にわたる事業の見通しを計画に落とし込**めていること等が求められます。

事業単体としての
利益確保

事業計画の策定

「観点B 好循環の仕組みづくり」

持続可能なコンテンツを旅行者に提供することで、観光による経済・社会・環境への恩恵を地域に還元し、**地域の持続可能性の向上に資する好循環の仕組みづくりを実装**するために、以下の**3つのポイントと6つの要素**が重要です

B1：地域資源の利用と保全をつなげる仕組み

地域の定番観光コンテンツ等に頼り過ぎず、**地域が重視する自然や文化、歴史や生業等の地域資源の活用や継承に観光も貢献する仕組みづくり**が重要です。

そのため、地域資源を守るための**ガイドライン・ルールづくり**や、**観光収益を地域資源の保全・維持管理へ再投資する仕組みづくり**、**地域の環境を守る活動そのものを観光コンテンツへ組み込み等**へ取り組むことも考えられます。

地域資源の
保全・維持
管理の実施
(ガイドライン・ルールづくり等)

観光収益の
地域資源の
保全・維持
管理への
再投資

地域環境を
直接守る
活動の組み
込み(動植物
モニタリング、
林道整備、清掃
活動等)

B2：地球環境保全への寄与

観光の移動手段によるエネルギー消費やプラスチックゴミの削減、温暖化対策のCO2削減など、**観光が地球環境に与える負荷を可能な限り軽減していく**必要があります。

例えば、観光から生まれる廃棄物の再利用、食品ロスの削減、プラスチック使用の削減等、様々なアプローチが考えられます。

観光による地球環境
への負荷軽減
(CO2削減、
廃棄物削減等)

B3：地域活性化に向けた貢献

観光業は裾野が広く、雇用や所得の増加など、大きな経済波及効果をもたらします。

観光業のみならず、**地域の様々な産業に直接的・間接的な経済効果**があり、**地域経済の好循環を生み出**します。

また、各地域が有する自然や文化、歴史等の資源の活用や、地域独自の創意工夫によって旅行者と地域住民の交流の機会を生み出すことで、**地域のファンや交流人口・関係人口の増加**が期待できます。

地域経済への貢献
(観光消費向上、
雇用の創出等)

交流の創出・拡大
(地域のファンや
交流・関係人口)

「観点C サステナブルツーリズムを推進する体制の強化」

地域の価値継承に寄与する**持続可能な観光の実施、マネジメント体制を強化**するためには、以下の**3つのポイントと5つの要素**が重要です

C1：推進主体と ステークホルダーの明確化

地域におけるサステナブルツーリズムの推進体制を強化するには、**地方自治体や観光地域づくり法人（DMO）等のみならず、観光に関係する地域のあらゆる関係者（ステークホルダー）**が、持続可能な観光に**協働で取り組む**必要があります。

中心的に推進する主体は誰（どの組織）が担うのか、ステークホルダーとして誰（どの組織）と連携してどのように役割分担をするかを明確にすることが重要です。

事業の中心となる
推進主体（事務局組織）の形成

事業者間の
連携強化、
組織の構築

C2：方針の策定

地域での取組を着実に推進していくには、**目指す方向性をビジョンやポリシーとして明確化**し、取組方針や計画を策定することが効果的です。

さらに**行政の観光政策や計画との連動性**が重要です。

地方自治体が策定する観光計画が**持続可能な観光地マネジメントを促進**するものとなっていることや、観光地域づくり法人（DMO）等や事業関係者が**持続可能な観光地を目指すことをミッションとして明確に揚げ、共有**することが求められます。

サステナブル
ツーリズムに関する
取組方針・計画（ポ
リシー等）の策定

C3：意識統一と担い手の育成 及び意識醸成

サステナブルツーリズムを推進する体制の強化には、**地方自治体、事業関係者、そして地域住民の意識と理解の向上**が重要です。

持続可能な観光地経営へ**地域一体**となって取り組むためには、**全ステークホルダーが観光に期待**することを把握したうえで、**共有し、意識統一**を図ることが重要です。

そのうえで、**人材育成や地域住民の巻き込み・意識醸成**などの取組を進め、観光による地域の社会・経済・環境への寄与の重要性について**地域全体で理解**していくことが必要です。

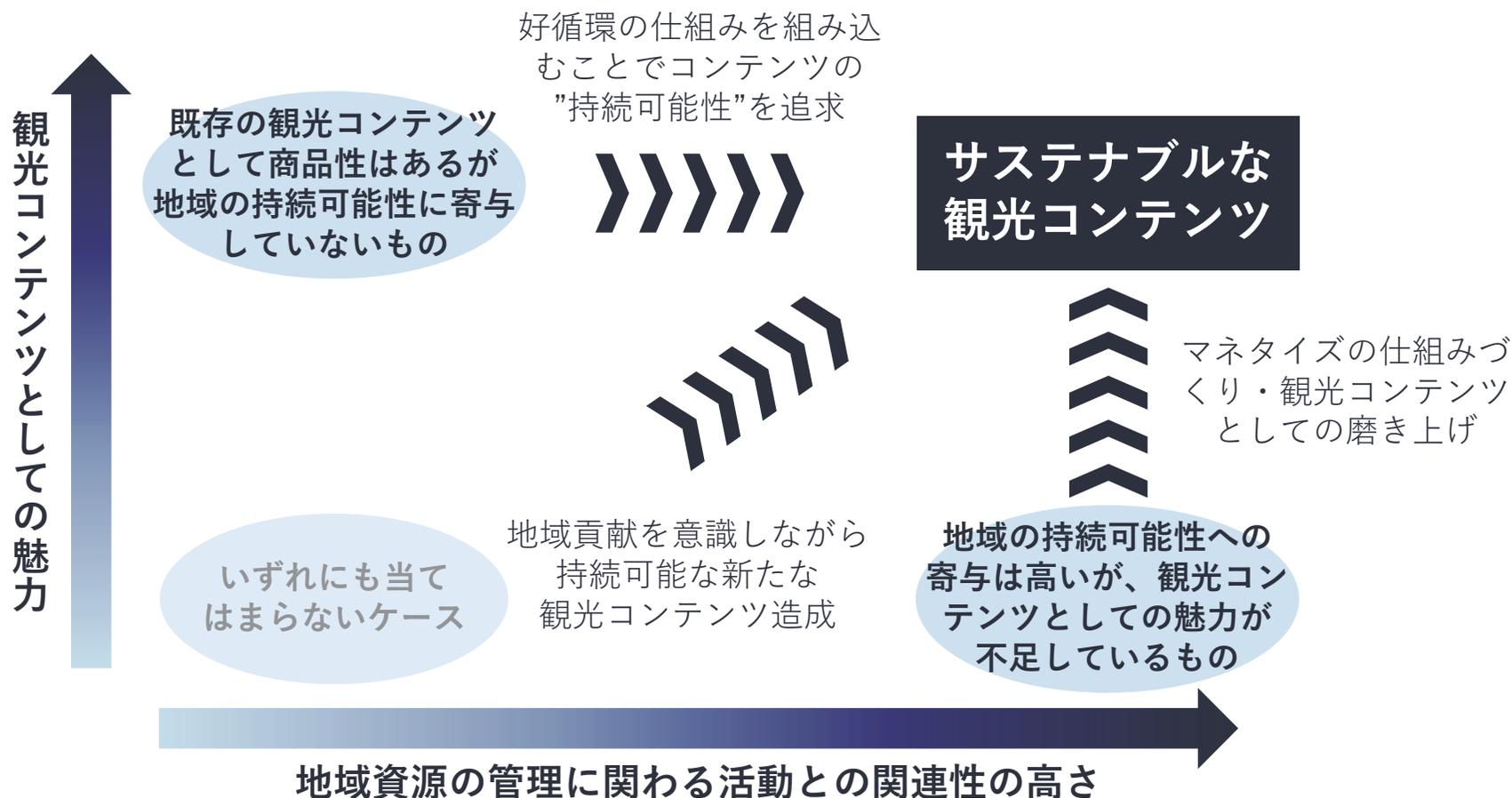
行政・関係事業者の
意識統一・強化
及び担い手の育成

地域住民の
意識醸成

地域やコンテンツの特色に応じた“サステナブルな観光コンテンツ”造成に向けたアプローチ

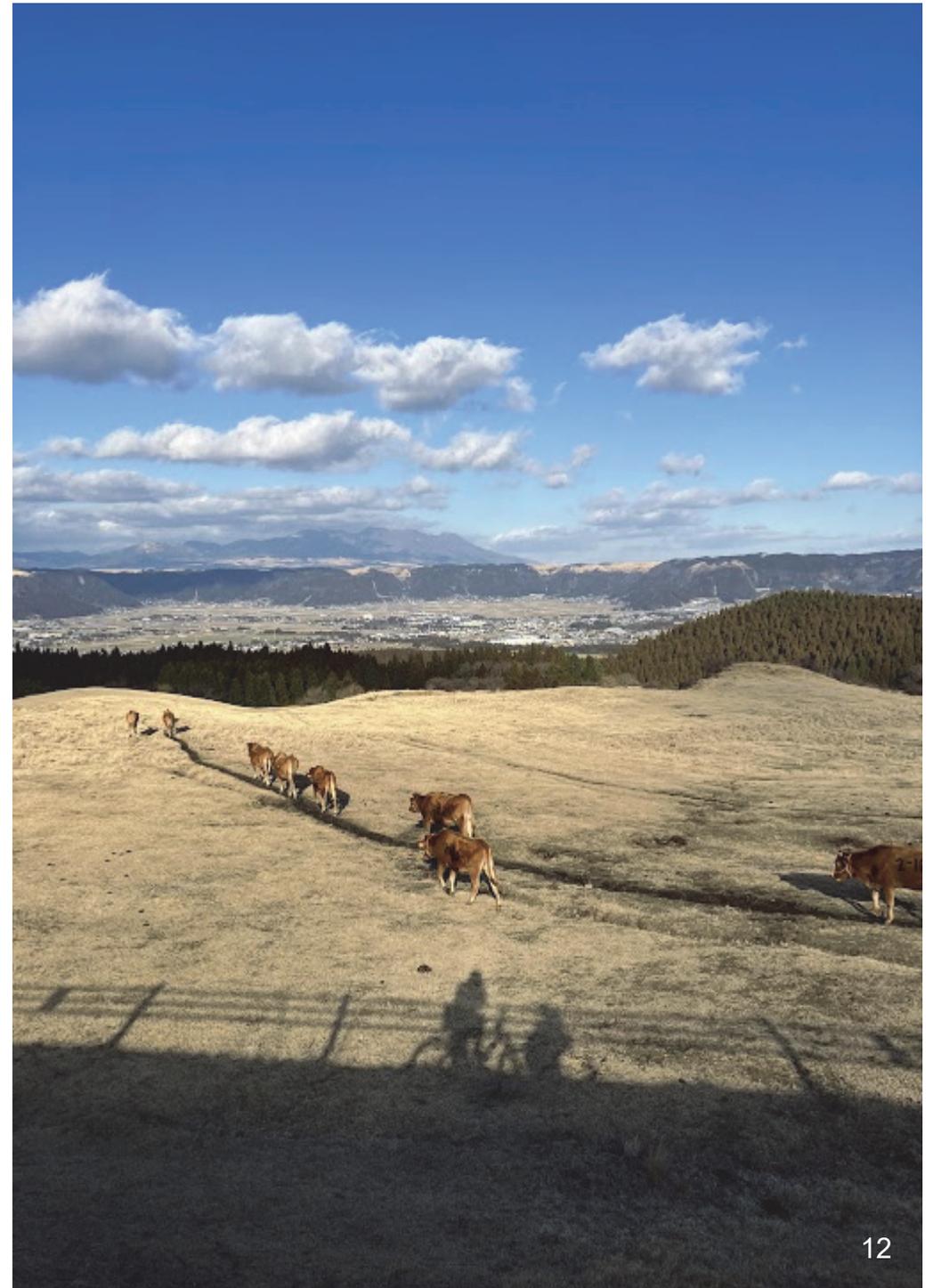
地域やコンテンツの特色に応じて“サステナブルな観光コンテンツ”造成に向けた道筋は多様です。地域ですでに確立している観光コンテンツに持続可能性の向上の要素を組み込むものもあれば、これまで観光利用されていない地域資源をもとに新たな観光コンテンツ造成を行うものもあります。さらに地域資源の管理に関わる活動をベースに観光コンテンツとして磨き上げていくものもあります。これらの立ち位置に応じて、効果的かつ本質的な取組としていくことが重要です。

その上で、幅広い旅行商品としては商業ベースには乗りにくくても、貴重な自然など地域資源として重要性が高い場合は、教育的意義も含めた取組として考えていくことも重要です。



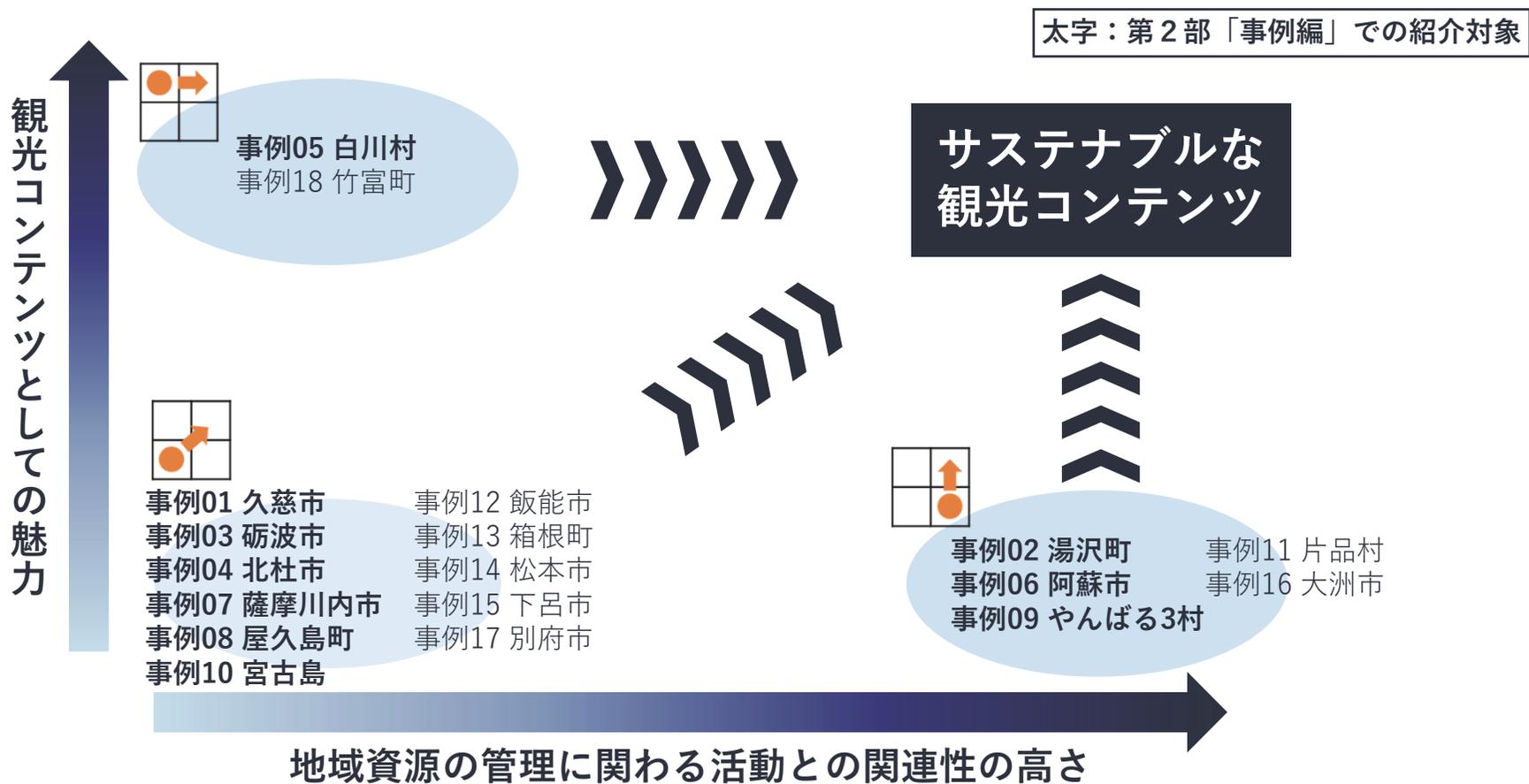
第2部 事例編

～好循環の仕組みづくりの
全体像をご紹介～



第2部の**事例編**では、本事業の対象の18地域のうち、**10地域**を取り上げて紹介します。なお、本事業の**事業開始時点における位置づけ**※は以下のとおりです。

※これらの位置づけは本事業に基づく事業内容によるものであり地域全体の位置づけとは異なります



※次頁以降の各事例紹介時に、各ページ右肩に当該事業の事業前・後の変化をアイコン  で表現

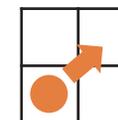
事例01

岩手県久慈市、洋野町、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町、宮古市、青森県八戸市、階上町

みちのく潮風トレイルを活用したトレイル&トレイン
特定非営利活動法人 久慈広域観光協議会

寄付型トレイル&トレインの確立に向けた体制強化

広域・多様なステークホルダーが共有できるサステナビリティポリシーの策定とその浸透



事業の背景・目的

地域の課題▶岩手県沿岸北部には「みちのく潮風トレイル」ルートがあり、国内外からその価値を認められてきた。これを活かし、R4年度より電車とトレイルを組み合わせた環境配慮型ツーリズムを展開してきたが、情報発信、地元ガイド、人的ネットワークが不足している。また、外国人ハイカーへの対応が課題となりチャンスロスが生じている。

事業の狙い▶利便性と環境保全を意識した「トレイル&トレイン」の仕組みによって歩き始める人を増やし、それらが地域経済にも寄与し、トレイルの保守にもつながるよう、歩く人、迎え入れる人の双方にとって好循環となる循環型トレイル文化の創出をめざす。

主な事業内容

コンテンツ造成・販売▶新規の体験プログラムを造成するとともに、セルフハイカーに対応したサービスとエージェント向けBtoB商品を造成した。

- ① **体験プログラム造成**：地元トレイルガイドが行きつけの店を案内する、というコンセプトで宮古のユニークな居酒屋文化を体験できる宮古でバーホッピング、東日本大震災で被災した宮古市田老地区の震災遺構等を自転車で巡り、復興まちづくりを体感できるE-Bikeで行く宮古体験ツアー、地域の食文化を体験できる漁師小屋“番屋”での塩づくり体験とできた塩でおにぎりランチといったプログラムを造成
- ② **セルフハイカー対応**：八戸～宮古間を電車を乗り継いで巡るセルフハイカーに対し、旅マエのオンラインサポート、荷物配送や二次交通、宿泊手配を提供
- ③ **エージェント向け商品造成**：八戸～宮古エリアのポイントとなる場所を地域スルーガイドや専用車が帯同する形で歩くプラン。エージェント向け商品として開発

体制の強化▶広域かつ多種多様なステークホルダーが共有できるサステナビリティポリシーを策定するとともに、集合研修や部会運営等を通じて、関係者の意識を醸成した。

実施体制

代表実施主体 (特非)久慈広域観光協議会
協力地域団体 洋野町、久慈市、普代村、野田村

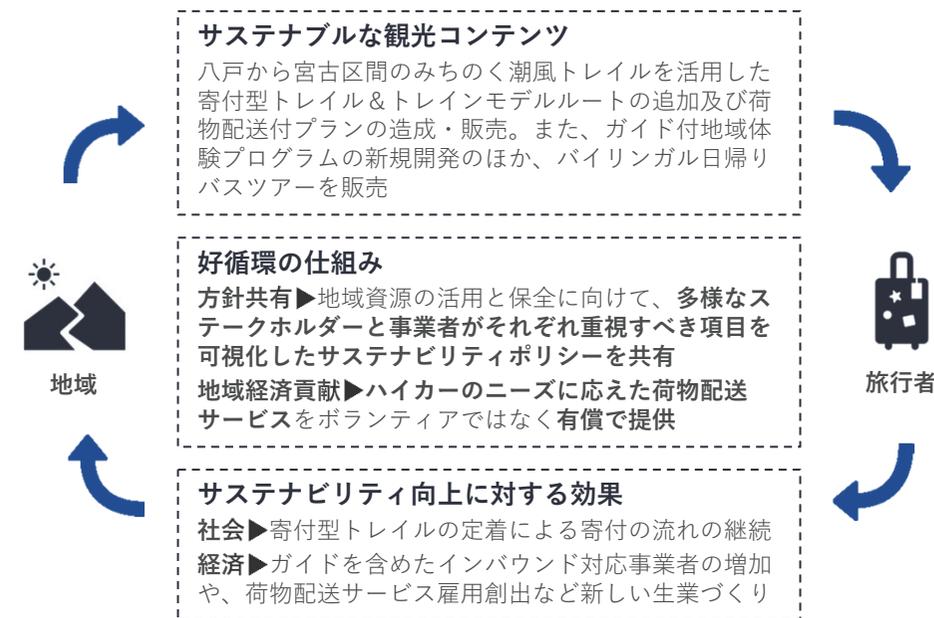
エージェント連携

首都圏連携 (ツアー造成・販売)
(株)JR東日本びゅうツーリズム&セールス
内大人の休日倶楽部 インバウンド
地域DMC連携 (ツアー造成・販売)
(株)インアウトバウンド仙台・松島 (全体)
(株)みちのリトラベル東北 (青森 岩手中心)

事業設計支援・プロモーション
アトラク東北 (株)、(株)クレセント

地域連携 (受入体制)
NPO法人 体験村・たのはたネットワーク
一般社団法人浄土日和

めざす好循環の仕組み



海岸トレイルを歩くハイカー



セルフハイカーが便利に移動するための荷物配送サービス



トレイン(三陸鉄道)による海を眺めながらの移動

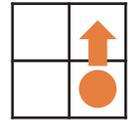
事例02

新潟県湯沢町、
南魚沼市、群馬
県みなかみ町

エコロッジを拠点にしたロングトレイル活性化事業
一般社団法人雪国観光圏

雪国文化を100年後につなげるロングトレイルコンテンツ

3県7市町村にまたがる広域連携によって地域全体におけるサステナブルに対する意識醸成



事業の背景・目的

地域の課題▶3県7市町村にまたがり広域連携している雪国観光圏だが、実態として地域一体となった取組が不十分であり、観光がもたらす効果を地域に十分に示せていない。また、温暖化の影響によりスキー場の積雪量が不安定になっていることから、積雪等の天候に依存しない持続可能な観光コンテンツ造成が必要となっている。

事業の狙い▶責任ある旅行者向けの高付加価値ツアーである広域周遊コンテンツ「スノーカントリートレイル」(SCT)を推進し、雪国観光圏の意義を地域住民に納得してもらい、住民、ガイド、宿泊施設等、地域が一体となって旅行者を迎える機運を高めることをめざす。

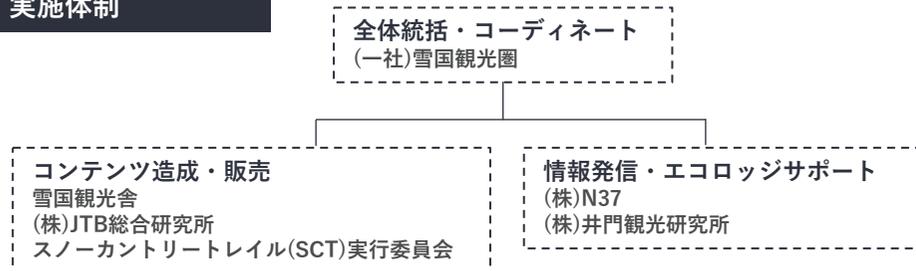
主な事業内容

コンテンツ造成・販売▶エコロッジとエコロッジをつなぐトレイルを鉄道とE-Bikeを活用して自然や文化に触れる「スノーカントリートレイル」を造成するとともに、トレイル維持保全活動への還元につながる「ハイカーサポートキャンペーン」を強化した。

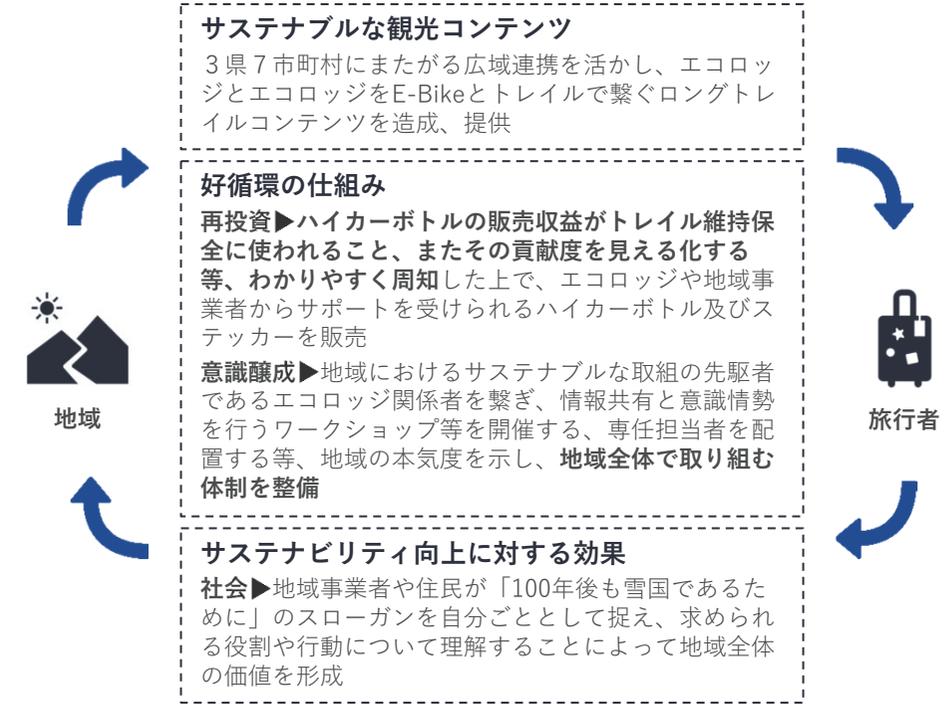
- ① **スノーカントリートレイル**：専属ガイドとともに上越国境をE-Bike・鉄道を組み合わせて走破し、各エリアのエコロッジに宿泊しながら雪国の歴史、文化、伝統、暮らしに触れられるロングトレイルコンテンツ
- ② **ハイカーサポートキャンペーン**：ステッカーを購入したハイカーが地域事業者から入山に際してマイボトル補充等のサポートを受けられるもの。ステッカーの販売収益は保全活動へ還元されることを周知し、責任ある旅行者の意識を持つ層に訴求

体制の強化▶「100年後も雪国であるために」をテーマに、必要とされる取組内容や期待される役割、想定される効果について示した「雪国行動憲章(仮称)」策定に向けて、ワークショップや地域住民向けセミナー等をオンラインやハイブリット形式等で複数回実施。地域事業者を中心とした連携強化を図った。

実施体制



めざす好循環の仕組み



地域の古刹に立ち寄りながらのロングトレイル



E-Bikeによる快適な長距離移動



ハイカーボトル購入によるトレイル保全への貢献の周知

事例03

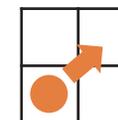
富山県高岡市、
砺波市、小矢部
市、南砺市

「地域再生ツーリズム」を散居村の保全・継承につなげる仕組みづくり
一般社団法人 富山県西部観光社 水と匠

さんきょそん

散居村の景観と伝統の手仕事を未来につなぐリジェネラティブツーリズム

精緻な数値計画・マーケティングプランに基づく高収益型の事業運営



事業の背景・目的

地域の課題▶自然と共生しながら積み重ねてきた散居村の景観や伝統の手仕事・文化といった地域資源は世界にとって価値あるものと言える。しかし、ライフスタイルの変化により生活の中で維持・活用が難しいことや、地域住民がその価値を客観的に評価していないために、**景観の保全や伝統の継承が日に日に困難になっている。**

事業の狙い▶地域内外の人が共に散居村保全に取り組むナショナル・トラスト運動につなぎ、ユネスコ世界遺産複合遺産登録をゴールに掲げ、**散居村の美しい景観、自然と共存するサステナブルな暮らし、それを支える多様な伝統文化や地域に根差す精神文化を未来へ継承する「リジェネラティブ（再生）ツーリズム」の確立をめざす。**

主な事業内容

コンテンツ造成・販売▶従来実施してきた**散居村ウォーク**の改善に加え、3つの新規コンテンツを造成・販売。新規コンテンツ開発:「しけ絹」を製造する工房を訪問し、作り手の思いを感じることができる絹織物工房訪問、標高差400mをパラグライダーで飛行し、散居村の景観を空から眺めるパラグライダー空中散歩、作務衣に着替えて書道家でもある光圓寺の住職に学ぶ静謐な寺院での書道体験

事業計画・マーケティング▶楽土庵及びツアープログラムの事業計画を立て、毎月数値を見ながらプランを見直し、取組を改善した。SNS広告も運用し、結果を分析しながらターゲットやエリアを定め、効果の高い層に集中して実施した。

散居村保全と地域内経済循環の促進▶地元の事業者と協業し、整備が課題となっている屋敷林（カイニヨ）の剪定枝から採取した精油からアロマミストを開発して発売を開始（R6年3月～）。販売価格は散居村保全のための寄付金を含み、好循環の仕組みづくりへつなげる。

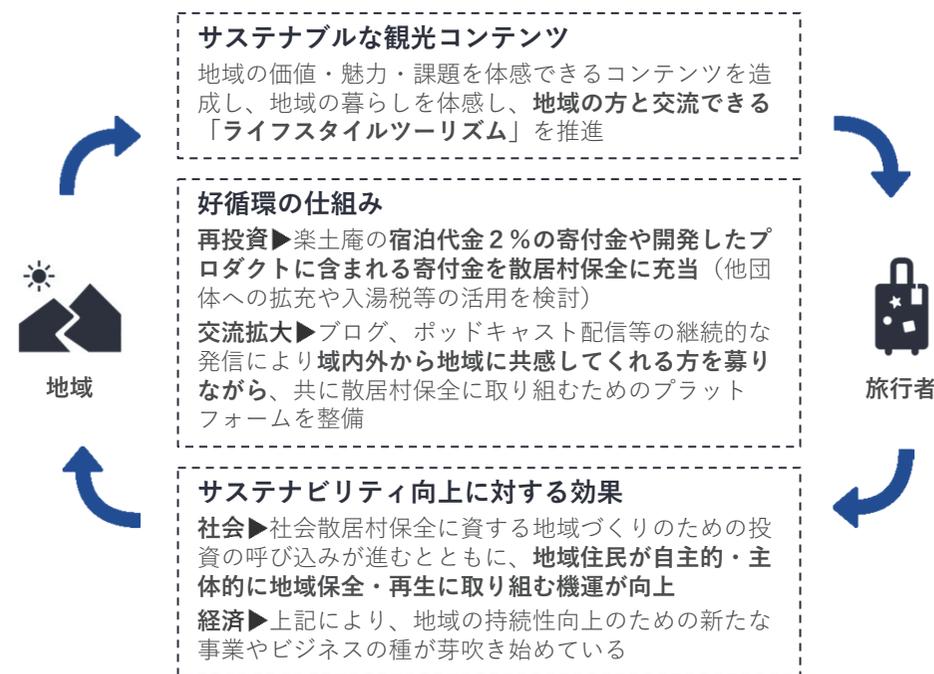
実施体制

全体企画運営・広報
(一社)富山県西部観光社 水と匠

コンテンツ造成・運営・広報
(株)水と匠 (楽土庵)、(株)wondertrunk & co.、(同)liil、(株)SINGING

地域関係団体・事業者
カイニヨお手入れ支援隊、砺波カイニヨ倶楽部、砺波野アーカイブをつくる会・ダーナの会、4市農業協同組合・農家団体、高岡・南砺市の伝統産業工房
地域ステークホルダー
周辺観光資源・施設、伝統産業工房、宿泊業、飲食業等
地域ステークホルダー調整
高岡市、砺波市、小矢部市、南砺市

めざす好循環の仕組み



しけ絹の作り手のご夫妻



上空から見る散居村の風景



屋敷林の剪定枝から作ったアロマミスト

事例04

山梨県北杜市、
長野県富士見
町、原村

美しい景観を守る好循環型モデル事業
一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメント

山岳・森林・里山・畑の資源循環をつなぐ旅行者参加型保全コンテンツ

SNSを活用した情報発信とコンテンツ参加の組み合わせによる地域のファン獲得



事業の背景・目的

地域の課題▶八ヶ岳観光圏のブランドコンセプト「天空リゾート八ヶ岳～澄みきった自分に還る場所」の基礎となる自然・景観の保全に取り組み、景観の悪化を防ぐ必要があるが、管理のための資金に乏しく、高齢化により担い手が不足している。また、課題解決に向けてR4年度にコンテンツを造成したものの、地域一体でのブランディングが不足。

事業の狙い▶昨年度造成した旅行者が地域住民とともに自然・景観の維持・美化の活動へ参加するコンテンツを活用しながら、各コンテンツの面的な展開、地域一帯での取組体制を整えるとともに、地域内の好循環を生むための仕組みとして、コンテンツ参加者の再来訪（ファン・サポーター化）を促す仕組みづくりに取り組む。

主な事業内容

コンテンツ造成・販売▶八ヶ岳が誇る美しい山岳・森林・里山・畑の各資源を活用し4つのコンテンツを造成。異なる各コンテンツの運営主体が一元的なWebサイトを立ち上げ、連携してプロモーションを実施。

- ① **フォレストウォークツアー（山岳資源）**：鹿の食害、森林管理と植樹の担い手不足、森の景観悪化等の地域課題を体感し、解決方法を考える体験ツアー
- ② **フォレストツーリズム（森林資源）**：苗木植付、森林の下刈り、間伐や皆伐及びその木材を使用する森林の循環を肌で感じる体験・見学ツアー
- ③ **里山再生ツアー（里山資源）**：国蝶オオムラサキの保全団体とともに伐採・下草刈り・ウッドカービングなどを体験し、楽しみながら里山再生に貢献するツアー
- ④ **フォレストファームツアー（畑資源）**：堆肥、土づくりから野菜栽培に携わる農業収穫体験。子育て世代が主なターゲット。参加者への野菜の定期購入も促進

交流の創出・拡大▶SNS（Instagram）を活用し、ファン獲得のための情報発信とキャンペーンを実施。旅行者の安定的な来訪を促すべくファンクラブやサポーター会員制度を導入し、移住者ネットワーク「八ヶ岳ふるさと倶楽部」会員が里山再生ツアー開発に参加。

実施体制

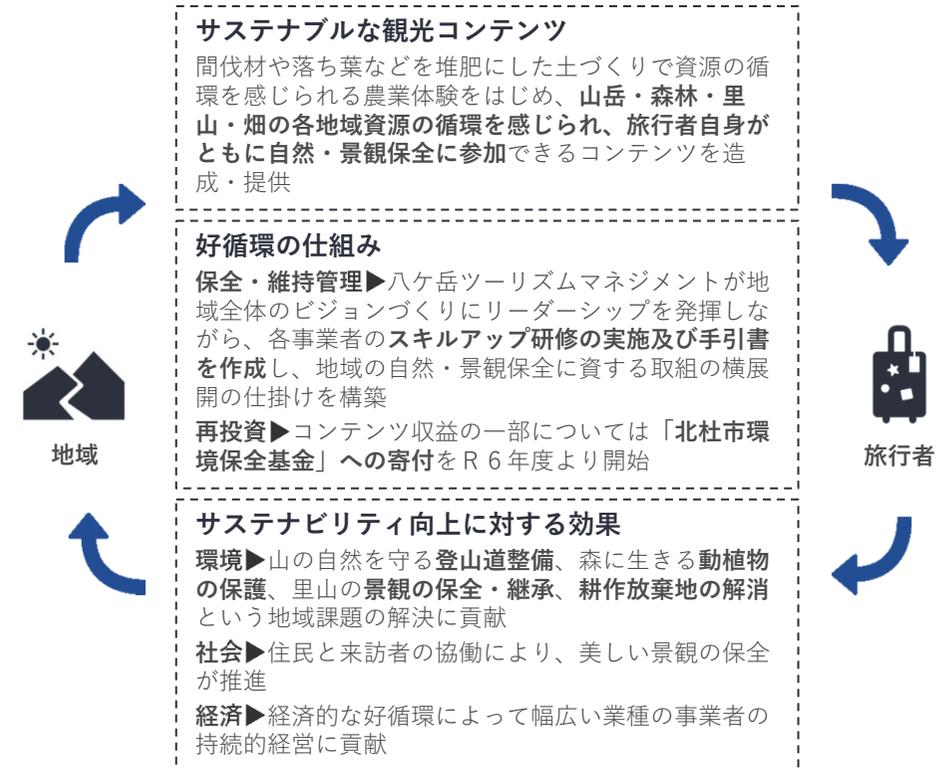
事業主体・企画統括
（一社）八ヶ岳ツーリズムマネジメント

広報・啓蒙活動
八ヶ岳観光圏
（北杜市、富士見町、原村）

コンテンツ造成・運営
（株）八ヶ岳登山企画、（有）天女山、（特非）自然とオオムラサキに親しむ会、（株）ファーマン

プロモーション・体制整備
ランドブレイン（株）、（株）サンニチ、（株）コムニコ、（株）サニーサイドアップ

めざす好循環の仕組み



Instagram投稿例（キャンペーン・モニターツアー）



Webサイトにおける4資源のツアー紹介

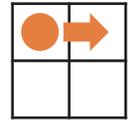
事例05

岐阜県
白川村

白川村の大切を繋ぐレスポンスブルツーリズム実践事業
岐阜県白川村

地域・旅行者・住民が良好な関係を育むレスポンスブルツーリズムの推進

旅行者とともに考え・行動してもらうためのルールづくりとマナーブック等による発信



事業の背景・目的

地域の課題▶白川村には世界遺産集落を目指して年間約215万人の旅行者が訪れ、観光資源や住民生活の消耗につながる様々な問題が生じている。一方で白川村も含まれる白山国立公園内については、豊かな自然や温泉などを生かした持続可能な観光コンテンツが不足し、その魅力を十分伝えきれていない。

事業の狙い▶イベント参加における事前予約制及びチケット制の導入等、これまでも取り組んできたオーバーツーリズム対策を発展させ、白川村の観光全体についてレスポンスブルツーリズムという考え方を取り入れ、旅行者と地域の良好な関係性をつくる仕組みの構築を図る。

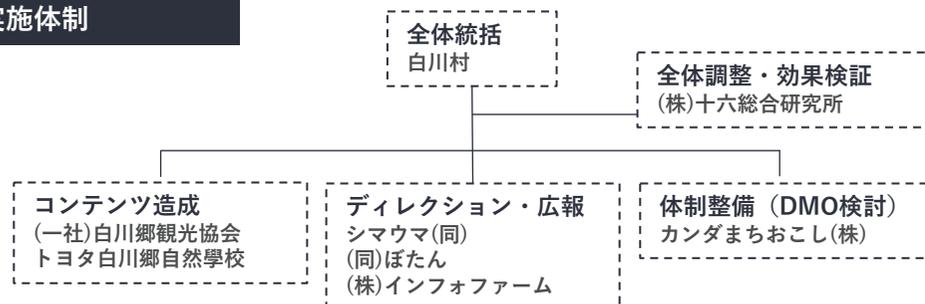
主な事業内容

コンテンツ造成・販売▶サステナブルツーリズムを体感できるコンテンツとして、地元ガイドと行くサイクルツアーやハイキングツアー等を造成。なお、ツアー行程において、地域の喫茶店への立ち寄りや飲食店による弁当手配等を積極的に取り入れ、地元事業者の売上にも貢献している。

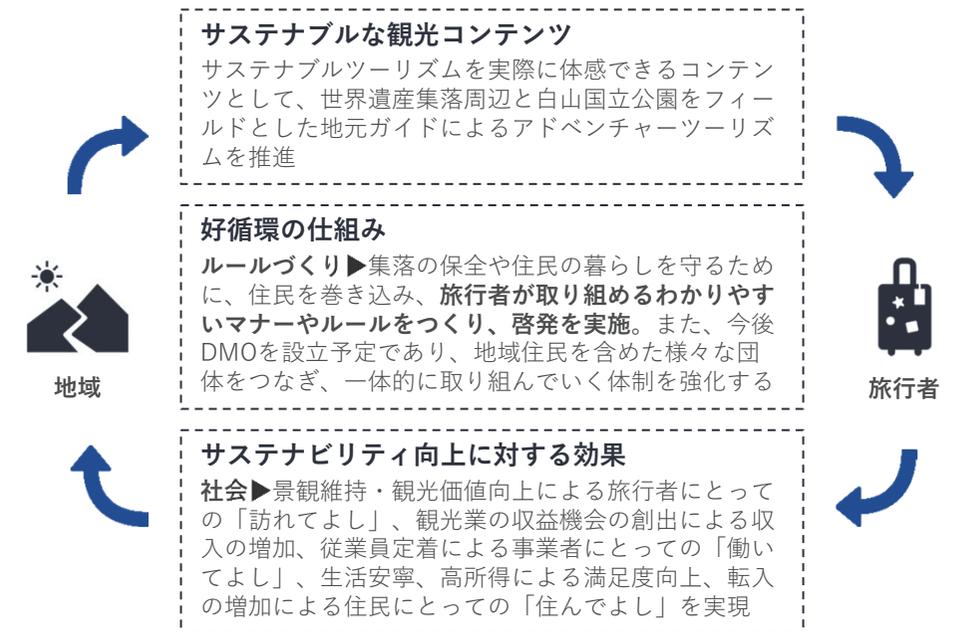
- ① **アドベンチャーツーリズム（サイクルツーリズム）**：世界遺産コース、国立公園コースをフィールドに、地元ガイドによるサイクリングツアーを催行
- ② **アドベンチャーツーリズム（ハイキングツアー）**：白山国立公園（大白川園地・三方岩岳）をフィールドに、地元ガイドによるハイキングツアーを催行（日帰り、宿泊）

ルールづくり▶世界遺産集落を訪れる旅行者にレスポンスブルツーリズムの考え方を理解してもらうため、旅行者に守ってほしいルール、マナーを取りまとめたマナーブック、Webサイト等を作成。英中仏などの多言語にも対応した。また、路線バス車内でも啓発動画を放映している。

実施体制



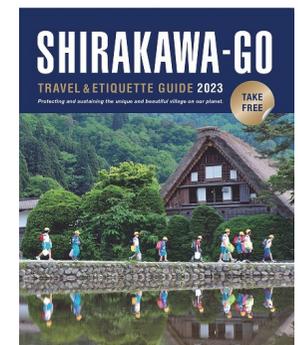
めざす好循環の仕組み



世界遺産集落周辺を自転車で巡る ※世界遺産集落内については、観光車両乗入の規制に準じ自転車を降り手押しで移動



エメラルドグリーン「白水湖」を眺めるツアー参加者



英語版マナーブック

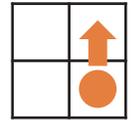
事例06

熊本県
阿蘇市

阿蘇カルデラ「草原の王冠」の好循環な体制構築
阿蘇カルデラツーリズム推進協議会

旅行者が地元農家とともに「草原の守り人」となる草原保全アクティビティ

旅行者・農家・草原の三方良しの仕組みづくりとWebサイト多言語化・予約導線整備による販売体制の充実



事業の背景・目的

地域の課題▶千年にわたって人と自然が共存共栄してきた「千年の草原」の景観が人気だが、農業形態の変化や担い手の高齢化等により草原の維持が困難になっている。また草千里や大観峰ではオーバーツーリズムが生じているが、通過型・物見遊山観光が主で経済効果も限定的である。

事業の狙い▶持続可能な方法で草原を活用した高付加価値な観光商品を提供し、適切な対価を得るとともに、旅行者の草原由来産品購入につなげ、観光と農業と環境の好循環をまわす。旅行者は草原でリフレッシュし、農家(牧野組合)は保全料還元を受け、環境面では希少な動植物が保全される三方良しの好循環をつくり、草原の減少に歯止めをかける。

主な事業内容

コンテンツ造成▶通常立ち入ることのできない草原内で行う3つのコンテンツを造成。

- ① **Regenerative**コンテンツ：旅行者は茅刈りや防火帯づくり等の草原保全活動に参加し、終了後は地元農家とあか牛BBQを囲み交流を深めることで、阿蘇の草原への共感・愛着を高め、草原を守り、楽しみ、受け継ぐことにつなげる
- ② **Off the beaten track**コンテンツ：早朝の日の出や雲海、夜間の星空を草原内で鑑賞し、地元食材のフード、ドリンクを楽しむ。主にインバウンド団体客のオプションツアーとして展開し、客単価の向上を狙う
- ③ **Universal tourism**コンテンツ：草原を自動車に乗車して見学し、ガイドが阿蘇の歴史・文化等を紹介するアクティビティ。これまでE-Bikeで実施していたものを高齢者など誰でも楽しめるユニバーサルなコンテンツとして展開

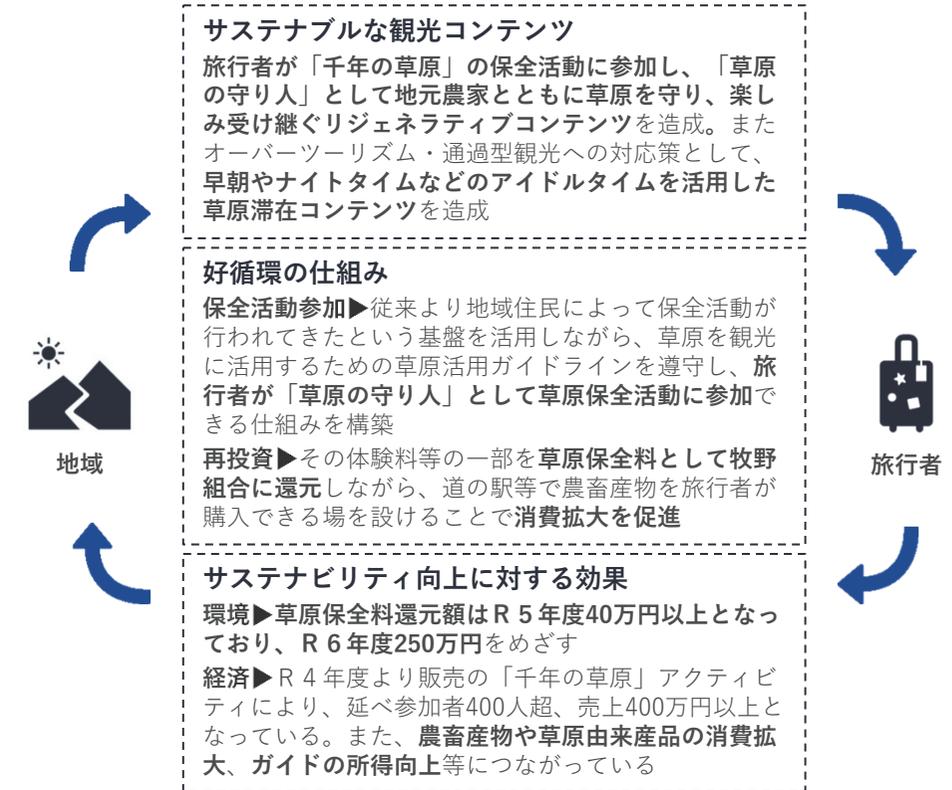
コンテンツ販売▶阿蘇市観光協会Webサイト「ASO is GOOD!」のアクセス解析を実施、その結果をふまえた英語・中国語版サイトを公開。また、アクティビティ予約の導線を整理し、旅行者の申込みを着実に管理できるようシステムを改修した。

実施体制

全体統括・事業管理
阿蘇カルデラツーリズム推進協議会
(阿蘇市、阿蘇くじゅう国立公園管理事務所、(公財)阿蘇地域振興デザインセンター、(公財)阿蘇グリーンストック、(株)ジェイ・ファイン、(株)肥後銀行、(株)熊本銀行 ほか)



めざす好循環の仕組み



阿蘇五岳を望む草原で「草原の守り人」の技を体験



雲海を眺める草原での朝食



体力に自信が無い方も安心して参加できる自動車ガイド

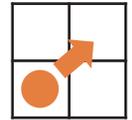
事例07

鹿児島県
薩摩川内市

放置竹林を再生する「バンブフル (Bambooful) ・ツーリズム」の推進
株式会社薩摩川内市観光物産協会

放置竹林の現状を学び、その活用を促す中長期滞在型スタディプログラム

放置竹林の増加の解決に向けたスタディプログラム造成と地域インストラクター育成に向けたマニュアル作成



事業の背景・目的

地域の課題▶薩摩川内市では、サーキュラー都市（循環経済産業都市）へ向けた拠点形成プロジェクト「Satsuma Future Commons」が進められてきた。しかし、同市が日本最大規模の面積を有する**竹林**について、高齢化が進む中で**管理の担い手が不足し、放置竹林の増加**が課題となっている。放置竹林の増加は、土砂災害が発生しやすくなる、周辺生態系に悪影響を及ぼす等、地域のレジリエンス低下につながり、対策が求められている。

事業の狙い▶国内外から建築空間設計に関心のある層を継続的に呼び込み、地域のサステナビリティ（自然生態系再生と地域経済活性化の好循環）に貢献する**バンブフルツーリズム**を造成し、**竹を使った学びを提供**することで**竹の建材としての利活用を促し、放置竹林の減少に貢献**する。

主な事業内容

コンテンツ造成・販売▶薩摩川内市藤本地区の地域住民と連携し、建築等の専門家（デザイナーや研究者・大学院生等）を対象とした滞在型プログラム、サステナブルに関心を持つ層に向けた**短期のエコツアー**という2つのバンブフルツーリズムコンテンツを提供。

- ① **竹を活用した建築空間設計を学ぶコース**：竹林の管理継続に向けて、竹を大量かつ継続的に使用する空間デザイン技術と、その背景にある竹林の生態系や課題を生活体験を通じて学ぶ5泊6日の滞在型プログラム
- ② **竹の地域生態系を学ぶエコツアー**：竹林の生態系から設計・加工の一連の工程まで、竹林・工場の現場を訪れながら学び、竹カップ製作体験を行う1 dayツアー

人材育成▶プログラム運営・竹林管理を担う**地域インストラクターを10年間で100人育成**することをめざして、大学生や地域住民に関わってもらい、OJTを実施。また、今後の育成のため**地域インストラクターマニュアルを作成**した。

実施体制

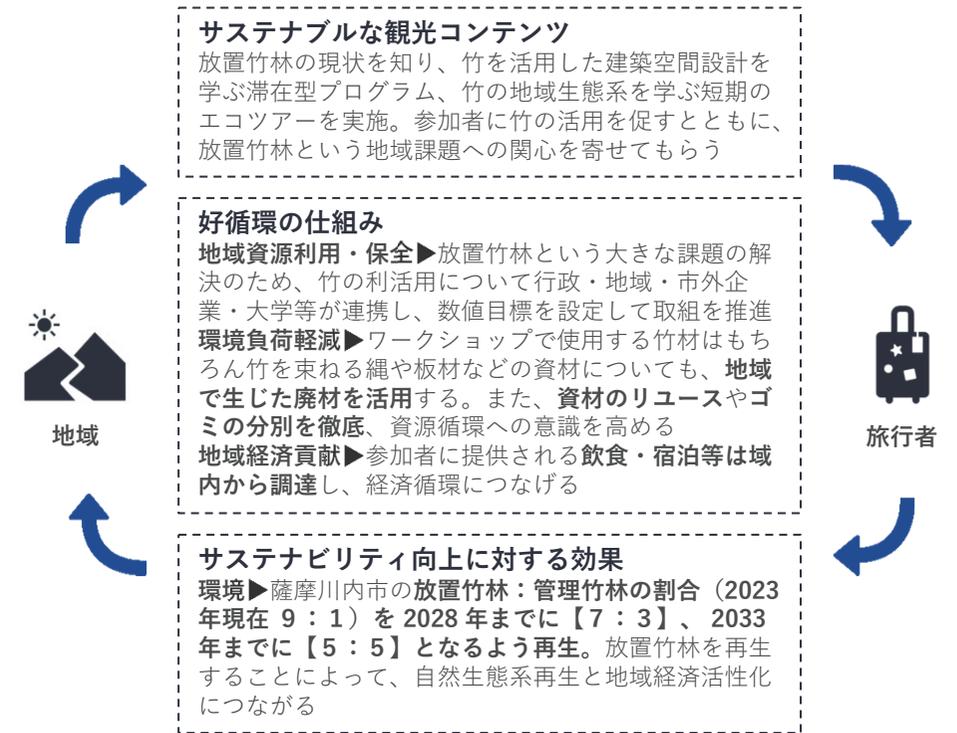
全体統括・販売
(株)薩摩川内市観光物産協会

地域連携
仙名農園

コンテンツ造成・運営
(株)リ・パブリック

販売
(株)UNAラボラトリーズ

めざす好循環の仕組み



藤本地区の管理竹林
©株式会社リ・パブリック



参加者による竹林整備体験の様子



竹空間デザインを演出する制作ワークショップ

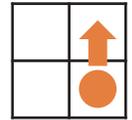
事例09

沖縄県
やんばる3村
(国頭村, 大宜味村, 東村)

やんばる保全ツアーの磨き上げによる地域好循環創出
やんばる「保全と利用」体験型コンテンツ開発実行委員会

保全ツアーの磨き上げによる奇跡の森の保全と利用の地域好循環の構築

ターゲット向けのツアー磨き上げと適切な販路構築による持続可能性の向上



事業の背景・目的

地域の課題▶世界自然遺産やんばるの森での密猟・盗掘を防ぐため、地域住民は林道パトロールに取り組んできた。R4年度、その取組を観光コンテンツ化した保全体験型ナイトツアー「AKISAMIYO（アキサミヨ）」を造成した。しかし**ツアー品質に一部課題**が残り、**販路開拓や好循環を生み出す仕組みの構築は未着手**に近い状態だった。

事業の狙い▶ターゲット層の整理によるツアーの訴求ポイント磨き上げ、3つの地域の特徴を活かしたツアーコースの体系整理に加え、宿泊施設や旅行会社との連携によって適切な販路を構築。環境保全金の地域内再投資や事業継続に必要な経済循環の仕組みの実現をめざす。

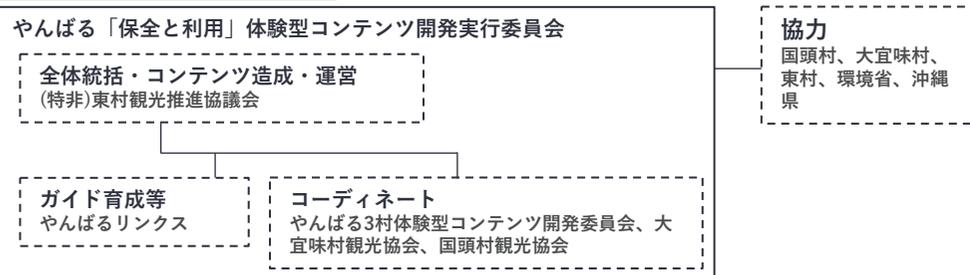
主な事業内容

コンテンツ造成・販売▶夜間に環境モニタリングを行う保全体験型ナイトツアー「AKISAMIYO」を磨き上げるとともに、新たな販路を開拓。

- ① **磨き上げ**：ツアーのターゲット層を意識して、植物、歴史文化に関する案内のポイントをマニュアル化することでツアー体験の高度化とガイドングの内容の平準化を図った。加えて、国頭村、大宜味村、東村のコースごとの特徴の明確化を行い、参加者の希望や特性に応じてコースを選択出来るようにツアー体系整理を行った
- ② **販路構築**：林道での外来植物駆除体験や、木軸ペン作成などの体験を加えた2泊3日の宿泊型商品を造成し、自社サイト直販に加え、宿泊施設と連携したオプション販売、ターゲット層にマッチする旅行会社との提携等により適切な販路を構築

地域資源の利用と保全▶やんばるの森の環境モニタリングを観光コンテンツ化しており、旅行者のコンテンツ参加をそのまま環境保全活動につなげている。また、**林道の観光利用時のガイドライン**を策定し、**ツアー催行者、ツアー参加者の双方が守るべきルール**を可視化するとともに、ガイド人材の育成・確保に向けた講演会を実施している。

実施体制



めざす好循環の仕組み

サステナブルな観光コンテンツ

やんばるの森の保全体験型ナイトツアー「AKISAMIYO」を販売。漆黒の森の中での希少生物との出会いといった非日常体験を提供するとともに、密猟・盗掘対策及び希少・外来生物の調査活動に貢献。また、販売拡大に向けた宿泊施設、旅行会社連携に加え、プロモーション動画を拡散

好循環の仕組み

保全活動参加▶「AKISAMIYO」参加者が環境モニタリングを行うことで保全活動への貢献を実感することができるとともに、コンテンツ参加者の増加がそのまま環境保全につながる
再投資▶収益の一部を外来植物防除活動に再投資している
運営自走化▶事業継続のため、クラウドファンディング等のコンテンツ販売以外の資金調達を継続的に実施

サステナビリティ向上に対する効果

環境▶コンテンツ参加者が増加することで保全活動が活性化し、やんばるの森を次世代へ継承
社会▶参加者の環境保全意識の向上
経済▶ガイド収益や域内観光消費額の増加につながる



地域



旅行者



ナイト環境モニタリング調査ツアー「AKISAMIYO」の様子



ツアー参加者からの環境保全金を活用した外来植物防除活動の実施



地域の保全と利用の意識を高めるとともにガイド人材の確保・育成を目的とした講演会を実施

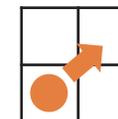
事例10

沖縄県
宮古島市

島と友（ゆー）を結ぶローカルサステナブルツーリズム
一般社団法人宮古島観光協会

地域の文化と環境に配慮したローカルサステナブルツーリズム

環境、社会、経済の「三方よし」の観光に向けたガイドラインの周知徹底と認証制度の立ち上げ



事業の背景・目的

地域の課題▶美しい海と三つの大橋が有名であり、東名阪からのアクセスが良好な宮古島には多くの観光客が来訪している一方で、その急激的な増加に地域内の受入体制整備が間に合っていない。オーバーツーリズムに対する施策として冬季の観光コンテンツの拡充や観光の質向上に寄与する担い手の育成、戦略的な観光情報発信が課題となっている。

事業の狙い▶観光を基点とした地域内経済・文化活動の好循環型プログラムを造成することで、宮古島固有の地域資源を活用し、保全・継承へつなげ、地域、環境、文化、経済全体の利益の最大化を図り、悪影響の最小化をめざす三方よしを実現する。

主な事業内容

コンテンツ造成・販売▶ローカルサステナブルプログラムを4種造成。地元資源の活用、エコツーリズムの推進、季節ごとの観光客の偏りの調整、地域経済への貢献を念頭に造成。

- ① **カヤックアンドビーチクリーンツアー**：ガイドの案内を受けながら島の成り立ちや島と水の関係性・恵みを学ぶツアー。漂着ごみを拾うクリーン活動も行き、「島を守る」活動に結びつけるプログラム
- ② **宮古馬によるシートーヤ（さとうきび絞り）体験・島ハーブ収穫体験**：種の保全と継承に大きな課題を抱えた宮古馬とふれあいながら、さとうきび絞りと黒糖作り体験または島ハーブ収穫とオリジナルドリンクを楽しむ体験の2プログラムを設定
- ③ **エンタメクイチャー**：宮古島の生活に密接な関わりのある伝統芸能であるが踊り手が減少している「クイチャー」をバイオリンとコラボしたエンタメコンテンツとして提供演者との触れ合いも含め、宮古島の芸能に触れてもらうプログラム
- ④ **宮古上布織り体験**：国の重要無形文化財に指定されている宮古上布の製作過程と織を実際の織り手から学びながら体験

方針の策定▶R4年度策定「サスティナブルツーリズムガイドライン」遵守のため周知を徹底。また、新たにガイドライン遵守事業者認証制度を立ち上げた（R6年3月1日から制度開始）。

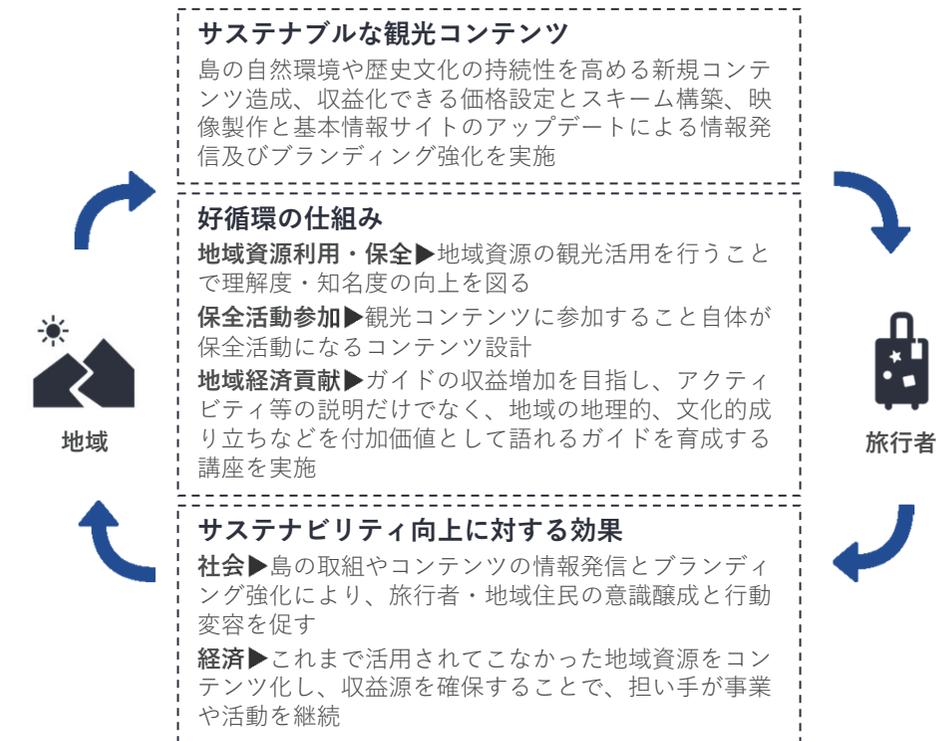
実施体制

全体統括・事業主体
(一社)宮古島観光協会

地域連携
サステナブルツーリズム連絡会
宮古島市観光商工課・生涯学習振興課

委託連携
(株)プラネットフォー、琉球COLLECTION社、
Johnny's Crew合同会社、本田屋本店(有)

めざす好循環の仕組み



宮古馬とのふれあいシートーヤ(さとうきび絞り)体験



エンタメクイチャー公演の様子



カヤックを楽しんだあとのビーチクリーン活動

事例
11~14

サステナブルな観光に資する好循環の仕組みづくりモデル事業 実施概要一覧①

NO	地域	事業主体	事業名称	事業概要
11	群馬県片品村、 福島県檜枝岐 村、尾瀬国立 公園全域	(一社)片品村 観光協会	山小屋魅力化と宿泊者の デッドタイムを活用した 保全活動推進事業	<p>コンテンツ▶尾瀬の木道廃材を活用したテーブル等の什器導入や飲食の新メニュー開発等を通じて山小屋のリブランディングを実施。また、尾瀬の自然の中で過ごす時間をより楽しむためにアウトドアマットの貸出等を行う山小屋滞在時間の高付加価値化に取り組み、ガイドとともに整備活動を体験する登山道整備ツアーをはじめとした保全参加型コンテンツを造成。(いずれもR6年実装予定)</p> <p>好循環の仕組み▶山小屋の魅力化と保全参加型コンテンツ造成・参加促進の循環により、尾瀬国立公園内の消費額向上を図るとともに、旅行者参加によって保全活動のリソースを確保。</p>
12	埼玉県飯能市	(一社)奥むさ し飯能観光協 会	学生・地域と連携した循 環型人材育成による森林 活用保全事業	<p>コンテンツ▶森林を活かした企業研修プログラムや、インバウンド向け高単価コンテンツとして、植樹イベントやゴミ拾い等を含む保全参加型のトレイルランニングイベントを造成。また森への理解を深める取組として、小中学生向けに植樹や伐採体験を含む校外学習プログラムを造成し、年齢を問わず意欲のある層向けには有償ガイド育成講座を開催。</p> <p>好循環の仕組み▶プログラムの販売収益の一部を植樹等の森林保全活動費に充当するとともに、森のガイド育成に取り組む。新たな財源確保と交流窓口拡大の観点から、森林環境贈与税を活用した荒川・墨田川流域の児童・学生に対する環境教育の促進を進め、交流拡大による新たな域内消費拡大の機会を創出していく。</p>
13	神奈川県箱根 町	(一社)箱根町 観光協会	箱根におけるサステナブルな観光コンテンツ強化 モデル事業	<p>コンテンツ▶R4年度観光庁事業で実施した観光資源の棚卸をふまえ、未開拓だった箱根八里旧東海道の歴史や文化と自然を関係づけたコースを造成し、箱根DMO認定ガイドと巡る箱根の再発見ツアーとして販売。また、横のつながりが弱かったアクティビティ事業者と宿泊事業者の連携を促し、水上バイクやトレッキング等を楽しむアクティビティツアーや、旅歩きアプリ「膝栗毛」を使用してごみ拾いと歩き旅を融合したウォーキングコンテンツをリリース。</p> <p>好循環の仕組み▶サステナブルツアーの販売を開始し、その収益の一部を箱根トラスト基金(箱根町資源保全基金)に寄付し、自然環境保全へとつなげる。また、ごみ拾いをコンテンツ化することで、旅行者の直接的な環境保全活動を促す。</p>
14	長野県松本市、 岐阜県高山市	(一社)松本市 アルプス山岳 郷	北アルプス・トラバース ルート循環型システム構 築事業	<p>コンテンツ▶インバウンド向けには、北アルプスの特別な出会いと体験がテーマのテラーメイド型長期滞在コンテンツの提供を開始。国内向けには、癒しと食のアウトドアライフがテーマの2泊3日ウェルネスパッケージツアーの提供を開始。</p> <p>好循環の仕組み▶特設WEBサイトにおける商品購入時、販売価格の3%を地域通貨として購入者に還元。地域通貨が使用されることで域内経済循環を促進。さらに、旅行者に使われなかった通貨は3カ月で有効期限切れとなり、それらの通貨の一部を地域の“Common Money”としてプールし、地域課題対応のために活用する。</p>

事例
15~18

持続可能な観光に資する好循環の仕組みづくりモデル事業 実施概要一覧②

NO	地域	事業主体	事業名称	事業概要
15	岐阜県下呂市 小坂町	(一社)下呂温泉観光協会	共感型観光地域づくり 「下呂市エコミュージアム構想」構築事業	<p>コンテンツ▶下呂温泉以外の地域資源や生活文化を基盤にした体験を観光コンテンツ化することで、来訪者が地域の方々と交流しながら、地域の環境や課題を理解し、地域への「共感」を高め、継続的に下呂に関わる仕組みづくりの構築を図った。</p> <p>本事業では、小坂町において、既存の体験コンテンツに「おてつだい」の要素を取り入れたモデルツアーを実施し、複数回訪れ地域活動に関わることで、参加者の地域への理解度や共感度がどう変化するかを検証。また、下呂市内の地域と来訪者が継続的につながるコミュニティ・プラットフォーム「KAYELLgero」を整備。次年度以降、本プラットフォームを通して、地域の情報発信や体験コンテンツの紹介を行いつつ、交流・関係人口の拡大を目指す。</p> <p>好循環の仕組み▶下呂市への交流・関係人口を増加させることで、下呂市全体の課題である担い手不足への対応や人手不足の改善につなげる。また、地域が主体となった観光推進を通して、地域の環境・文化の保全と活用の両立や、地域経済の活性化を図る。</p>
16	愛媛県大洲市	(一社)キタ・マネジメント	大洲城下町サステナブルツーリズムのシステム構築事業	<p>コンテンツ▶ガイド付きまち歩きツアー「OZU STORIES大洲城下町再生の物語」を造成し、団体、個人旅行者、地域住民それぞれを対象としたモデルプログラムを造成。特に団体については、城下町再生に関心が高いSMALL MICEやインセンティブ旅行を主なターゲットに設定した。</p> <p>好循環の仕組み▶まち歩きツアーの体験をきっかけに、交流人口・関係人口を増やし、大洲のまちに活気を取り戻す。また、ツアー体験料金の5%をまちの保全・保存活動を行う地域団体や観光事業に寄付するとともに、余剰利益はガイドの育成等に充当する。</p>
17	大分県別府市、 国東市、宇佐市	(株)松秀	神仏習合文化の食楽ガストロノミー造成・人材育成事業	<p>コンテンツ▶神と仏が出会った地とされる宇佐国東半島の寺社仏閣への周遊を促すため、すでに多くの観光客が訪れる別府市内宿泊施設で、神仏習合をテーマとした歴史文化解説付きのコース料理を提供。</p> <p>好循環の仕組み▶連携する地域の寺社仏閣への周遊を促すとともに、収益の一部を寺社仏閣に寄付する。また、料理には地元食材を活用することで地域の農家等の経済循環につなげる。</p>
18	沖縄県竹富町 (西表島)	竹富町西表島エコツーリズム推進協議会	西表島の海域・海岸線の低負荷型体験による好循環創出	<p>好循環の仕組み▶マリントアラーの安全確保と適正利用が図れるよう、周辺海域の船の航行や漁業活動に支障がない係留ブイの形状を選定して必要な手続きを行い、登録係留ブイとして継続的に管理していく体制を確保できるようにする、後背の土地と十分な隔離距離を確保できる公共海岸域を「野営地」として選定して必要な手続きを行うことにより、海浜での野営を伴うバックカントリーツアーが実施できるようにする等、責任あるサステナブルツアーを継続していくための仕組みづくり・計画整備を実施。</p>

第3部

ナレッジ編

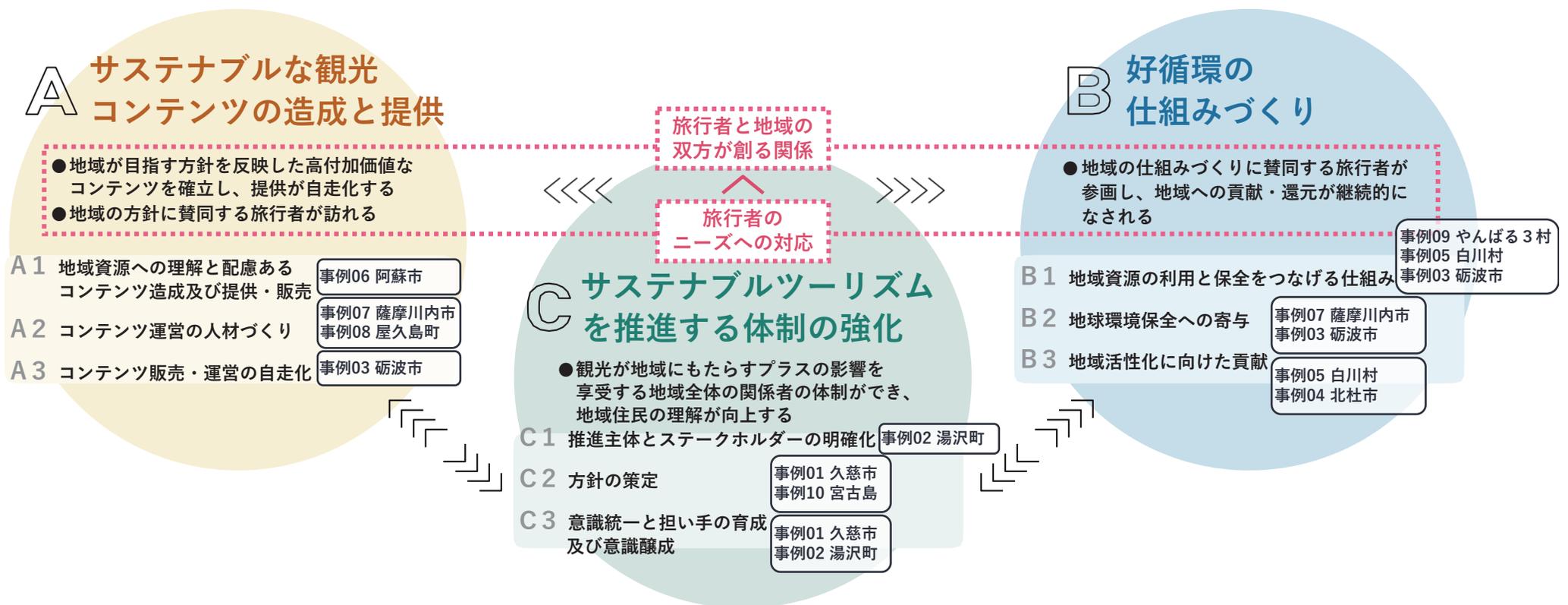
～「サステナブルツーリズム推進の
うえで参考となるポイント」を
具体事例を用いてご紹介～



【再掲】サステナブルな観光に資する好循環の仕組みづくりのための3つの観点と9つのポイント

第3部では、第1部で紹介したサステナブルツーリズム推進のための3つの観点と9つのポイントについて、取り組む際に参考となるポイントを具体事例を取り上げて紹介します。

事例00 ○○市：第3部「ナレッジ編」での紹介対象



A サステナブルな観光コンテンツの造成と提供

A1 地域資源への理解と配慮あるコンテンツ造成及び提供・販売

自然・文化等の地域資源の本質を感じられるコンテンツ造成

旅行者が地域資源の魅力や課題などの本質を感じることができる体験を観光コンテンツとして造成

事例06 阿蘇カルデラ「草原の王冠」の好循環な体制構築
阿蘇カルデラツーリズム推進協議会

Point!

- ✓ 旅行者が地域資源の本質を実感でき、地域住民との交流を深められ、かつ、旅行者が地域住民と一緒に地域資源の保全等を体験できる要素をコンテンツに組み込むこと
- ✓ 地域資源を守るために消毒実施、地域食材を活用等、地域の持続可能性を考慮した取組を旅行者へ伝え、満足度向上へ繋げること

観光コンテンツの造成

阿蘇の「千年の草原」を活用した、旅行者も草原の守り人となる観光コンテンツ3本を造成

- ①Regenerativeコンテンツ：地域事業者と茅狩り・防火帯作り等へ参加し、あか牛BBQを通じて地域農家と交流。
- ②Off the beaten trackコンテンツ：オーバーツーリズム対策の一環として、早朝の日の出/雲海を見ながらの朝ごはんや夜間の星空を鑑賞。地域の食材や飲み物を楽しめる。
- ③Universal tourismコンテンツ：草原を自動車に乗車して見学し、ガイドが阿蘇の歴史・文化等を紹介するアクティビティ。これまでE-Bikeで実施していたものを高齢者など誰でも楽しめるユニバーサルなコンテンツとして展開。



茅狩り参加ツアー



早朝の日の出を見るツアー



軽トラックによるサポート

地域資源の持続可能性を配慮した取組

本事業ではコンテンツ内で以下の取組を実施

- E-Bike参加者が草原に入る前に消毒を実施。
- 地域の食材・飲み物を活用等。



消毒の実施



地域の食材を活用

効果的な提供・販売

コンテンツ内容に見合ったターゲット選定、旅行者のニーズの把握、販売の仕組み構築、効果的なプロモーションを通じてコンテンツを提供・販売

事例06 阿蘇カルデラ「草原の王冠」の好循環な体制構築
阿蘇カルデラツーリズム推進協議会

Point!

- ✓ コンテンツのプロモーションから予約・販売・来訪まで、スムーズに繋がられる導線づくりに取り組むこと
- ✓ ホームページの流入状況や動線等の解析で、在庫/顧客管理上の課題を明確にし、コンテンツを効率的に販売する仕組みを構築すること

SNS～予約・訪問までの導線づくり

SNSでの単なる露出だけではなく、コンテンツの販売・来訪に繋がる仕組みづくりを実施

- 阿蘇市公式インスタグラム「asostagram」等へ阿蘇市観光協会公式ホームページ（ASO is GOOD!）のリンクを紐づけ、SNS閲覧～予約・訪問までの導線づくり。
- 「ASO is GOOD!」上に阿蘇観光協会員のアクティビティ事業者のコンテンツ掲載を徹底。
- また、予約システムの「ウラカタ」を導入し、ホームページ上での在庫管理・事前決済・顧客管理強化へ取り組んだ。



asostagramとの紐づけ



在庫管理・事前決済・顧客管理強化

ホームページの改修

ホームページ（ASO is GOOD!）の流入状況や動線等のアクセス解析を行い、途中離脱や在庫管理における課題を明確化・改修

- ASO is GOOD!のアクティビティ予約導線からポップアップを表示せずにOTAの予約ページへ遷移させることで、OTAでの在庫管理や予約までの離脱者数の軽減へ取り組む。

A サステナブルな観光コンテンツの造成と提供
A2 コンテンツ運営の人材づくり

旅行者に向けて地域理解を促す人材・コンテンツに係わる人材の育成

旅行者に向けて地域理解を促す人材（ガイド）やコンテンツに係る人材（コーディネーター）を、地域住民や地域の専門家、産業従事者等から育成

事例07 放置竹林を再生する「バンブフル(Bambooful)・ツーリズム」の推進
株式会社 薩摩川内市観光物産協会

Point!

- ✓ ガイドの方法論に加え、活動が地域の課題解決にどのように貢献するか、マニュアルの形でガイドへわかりやすく提供すること
- ✓ インストラクターの役割の理解を促し成長をイメージできる内容になるような工夫を行うこと

インストラクター育成マニュアルの作成

バンブフル・ツーリズムの担い手（インストラクター）の育成に向けた、インストラクター育成マニュアルを作成

- バンブフル・ツーリズムの意義：放置竹林の現状と課題を解説。当ツーリズムが放置竹林の課題解決にどのように資するかを解説。
- ツアーの運営方法：ツアーの各プロセスとインストラクターの役割、竹を用いた空間デザインを設計方法など、実践的な内容を写真等と共に紹介。
- インストラクターの声：インストラクター経験者の体験談を紹介。役割や成長をイメージできる内容としている。

インストラクターマニュアルを用い、地域の大学生や住民等から、年間10名、10年間で100名のインストラクターの育成を行う計画



インストラクターマニュアル



事例08 世界自然遺産「屋久島」観光のロングテール化実証事業
一般社団法人 屋久島アカデミー

Point!

- ✓ 基礎的なガイドスキル底上げのため、熟練ガイドによるOJTを実施すること
- ✓ 実務経験のあるガイド向けに実地と座学を交えての研修を行うこと
- ✓ ガイドスキルを体系化した読本を作成すること

国内旅行者向けガイドの育成

国内客向けガイド育成を目的に以下へ取り組む

- 熟練ガイドが旅行者を案内している実際のツアーに、比較的経験の浅いガイド（育成対象者）複数名を帯同。
- 熟練ガイドの説明内容や語法を体感してもらうことで、実践的な話法や、旅行者の特性に合わせたガイド内容のあり方など、座学では図りにくいスキルの伝達を図る。
- 今後は、ガイド技術を体系化した「屋久島ガイド技術読本」（仮）を作成予定。



熟練ガイドによるOJT



ガイド秘術絵本のイメージ

インバウンド向けガイドの育成

インバウンド向けガイドを目的に以下へ取り組む

- 全国通訳案内士資格（英語）を有する外部講師を招聘。
- 比較的事務経験豊富なガイドを対象に、座学によるレクチャーに加え、実地研修を実施。
- 研修を通じ、多言語でのガイド以前の課題として本来のガイドスキル不足が課題と自己認識する参加者もあり、改めて日本語でのガイド研修を再履修するなどの動きも出ている。



インバウンド向けの座学研修



インバウンド向けの実地研修

A サステナブルな観光コンテンツの造成と提供
A3 コンテンツ販売・運営の自走化

事業としての利益確保

事業としての売上により、必要なコストを賄えている状態を実現

事例03 「地域再生ツーリズム」を散居村の保全・継承につなげる仕組みづくり
一般社団法人 富山県西部観光社 水と匠

Point!

- ✓ 複数の収益要素を組み合わせることで利益の確保を行うこと
- ✓ ターゲットに適合したコンテンツ造成と適切な価格設定を行うこと
- ✓ 地域の事業者にも利益が配分される仕組みをつくることで、地域の賛同者を増やし、よりサステナブルな事業推進を行うこと

複合的な収益要素の組み合わせによる利益確保

地域に伝わる土徳の概念の啓蒙・普及を図る当事業では、主たる収益要素である宿泊代金のほか、体験コンテンツや物販などを組み合わせることで安定的な利益確保を達成している

- 宿泊：アズマダチ（古民家）を改修したお宿「楽土庵」では、モダンラグジュアリー層をターゲットとし、1泊1室（2食付）当り5万円～7万円程度での販売を実施。
- レストラン：宿泊者以外にもランチ・ディナーの受け入れを行い、稼働率を高める工夫を実施。
- 体験コンテンツ：町歩き、アロマスプレー作り、書道体験、越中いさみ太鼓の練習体験、パラグライダー体験など、数千円～1.3万円程度の豊富な体験コンテンツを提供。
- 地域共創型物販：地域の事業者との協業による幅広い物販を展開（メーカーと共同開発したアメニティー、デザイナーと共同開発のルームウェア、ガラス作家によるリサイクル材を用いたガラス製品など）。地域の事業者にも利益の一部を還元している。



楽土庵の外観



地域のガラス作家とのコラボレーション製品

事業計画の策定

自走化に向けた今後3年間程度を想定した事業計画が練られている状態

事例03 「地域再生ツーリズム」を散居村の保全・継承につなげる仕組みづくり
一般社団法人 富山県西部観光社 水と匠

Point!

- ✓ 収益に直接関連するKPI以外を含め、事業に必要となる要素を洗い出し、それぞれに複数年にわたるKPIを設定すること
- ✓ 設定したKPIを実績値と比較し、適切な予実管理を行い、単価の見直しやKPIの再設定などを行うこと

事業の性質に合わせたKPIを設定・管理

宿泊、食事、体験コンテンツの他、地域における当事業の賛同者数などにも目標を設定し、適切な予実管理を行っている

- 宿泊：宿泊者数、客室単価、稼働率等による目標値を設定。事業2年目後半から宿泊単体でも損益分岐点に到達。
- 体験コンテンツ：既存・新規の区分で、コンテンツ単位での目標値の設定を行い、今後造成する新規コンテンツの内容や単価の検討に役立てている。

KPI項目 (主要例：一部数字は伏せています)	R4 実績	R5 実績		R6 計画	R7 計画
		上期	下期		
全体	売上高	-	-	-	-
	営業利益	-	-	-	-
宿泊	宿泊人数	66	184	340	-
	宿泊客室数	41	105	193	-
	稼働率	17%	23%	40%	-
	客室単価（床代）	-	-	-	-
レストラン	ランチ利用人数	437	725	957	-
	ディナー利用人数	245	337	581	-
体験	既存 散居村ウォーク	-	270	470	520
	新規 しけ網体験	-	16	30	30
	書道体験	-	8	30	-
リジェネティブ・ツーリズム に取り組む事業者数	-	55	70	70	

B 好循環の仕組みづくり

B1 地域資源の利用と保全をつなげる仕組み

地域資源の保全・維持管理の実施（ガイドライン・ルールづくり等）

地域資源の負荷をできるだけ低減しながら利用するためのガイドラインや、地域資源の保全や維持管理のためのルールを策定、遵守する仕組み

事例09 やんばる3村／やんばる保全ツアーの磨き上げによる地域好循環創出
やんばる「保全と利用」体験型コンテンツ開発実行委員会



Point!

- ✓ ツアー催行者側、ツアー参加者側の双方がそれぞれに守るべきルールを、ガイドラインとして具体的、かつわかりやすく示すこと
- ✓ 文字情報に加え、主要な要素を動画としても示すこと
- ✓ 上記をツアーの申し込みや参加前の時点で予習していただき、理解を深めたうえでツアー当日に参加いただくこと

ガイドラインの策定と事前動画の提供

ツアーの催行ルールに関するガイドラインを策定し、ツアー催行者、ツアー参加者の双方が守るべきルールを可視化

- ツアー催行者側には、ツアーガイド心得や保全・安全管理に関わるルールなどを明示。一例として、同一ルートの利用には催行日に間隔を空けることや、樹上のヤンバルクイナを発見した場合は15m程通り過ぎたところで停車させ静かに近づくなど、詳細なルールを明示。
- ツアー参加者側には、動植物に気軽に触らないこと、ライトの利用方法（生き物に影響の少ない赤色か緑色のライトを使用）、希少な動植物の居場所を情報発信しないことなど、守っていただきたい内容を明示。

ガイドラインの主要な部分をまとめた動画を提供し、守っていただきたい内容をツアーの申し込みや参加前に予習していただくことで、ツアーの理解を深めるとともに、期待値のズレが起こることを防止



ガイドラインを策定

参加前に見る動画を提供

事例05 白川村／白川村の大切を繋ぐレスポシブルツーリズム実践事業
岐阜県白川村



Point!

- ✓ 短くわかりやすい表現で、すべき／すべきでないことを明確に記載
- ✓ 上記の背景を説得力が出るような明確な理由を説明できること
- ✓ 訪問客の動線を考慮し、様々な形での啓蒙活動を組み合わせること

ルールの策定と動線に沿った効果的な発信

白川村を訪れる旅行者が守るべきルール5つを整理

- 指定駐車場をご利用ください。
- 火の取り扱いは厳禁です。
- ゴミは思い出とお持ち帰りください。
- 夜の観光を受け入れていません。
- ドローンは禁止となります。

なぜそのルールを守ってほしいのかの背景情報についても丁寧に発信

- 合掌集落では今もなお住民が生活している特殊性を踏まえた背景情報を各ルールに付記し、納得感の醸成を図っている（例：合掌集落は耐火性が低いため、火の取り扱いは要注意）。

上記を動線に沿って効果的に発信することで、より多くの観光客への啓蒙を図り、責任ある観光客としての自覚を促している



マナーブックとして作成

多言語Web公開

バス内で放映

B 好循環の仕組みづくり

B1 地域資源の利用と保全をつなげる仕組み

観光収益の地域資源の保全・維持管理への再投資

コンテンツ販売で得られた収益の一部を具体的な維持管理活動に充てる仕組み

事例03 「地域再生ツーリズム」を散居村の保全・継承につなげる仕組みづくり
一般社団法人 富山県西部観光社 水と匠



Point!

- ✓ 保全金の用途や金額を旅行者に示すことで、貢献を実感できるようにすること

宿泊代金の一部を再投資し、旅行者にも用途を可視化

アズマダチ（古民家）を改修したお宿「楽土庵」の宿泊代金の一部を、地域に再投資

- お宿「楽土庵」の宿泊代金のうち2%に当たる金額を、散居村の保全のために充てる活動を、昨年度から継続的に推進。
- 用途としてカイニョ（屋敷林）の手入れ、カイニョの剪定枝を用いた木質バイオマス発電、落ち葉から腐葉土を作る活動などに充てられている。
- 能登半島地震後は、能登地震被害への義捐金に充てるなど、地域の課題に即し用途を設定。
- 宿泊者に対し宿泊明細において用途を含め明示化することで、地域資源への貢献を実感できる仕組みを構築している。

金額/the sum of	880 円
<p>楽土庵では、国の重点里地里山に選定されている「となみ野の散居村」保全に取り組んでいます。宿泊代金の2%をお客様からの寄付金としてお預かりし、散居村保全活動団体への支援などに充てさせていただきます。例えば、カイニョ（屋敷林）の整備を行い、その剪定枝を木質バイオマス発電に利用する活動や、カイニョの落ち葉から腐葉土を作る活動を支援しています。それにより、カーボンニュートラルにも貢献します。大切な寄付金をどのように使用したか、ご報告もさせていただきます。</p> <p>Rakudo-An is committed to the preservation of the "Dispersed Settlement (Sankyō-son) in Tonami," which has been selected as one of the country's priority satochi-satozuma. 2% of the room charge will be donated to the organizations that are involved in the conservation of the village landscape.</p>	

お宿「楽土庵」の宿泊明細において用途を明示化



お宿「楽土庵」



カイニョの手入れ



再投資に関する取材記事

本事業の「地域資源の保全・維持管理への再投資」における取組の整理



Point!

- ✓ 再投資率/額を定める際、再投資先の詳細（どの維持管理活動に再投資するか、どの程度の金額が必要か等）を把握した上で設定すること

コンテンツ販売売上等の一部を再投資する事例

事業名	市町村名	再投資率	再投資先
事例02 エコロッジを拠点にしたロングトレイル活性化事業	新潟県 湯沢町等	3%	• トレイル維持管理（看板設備等）等
事例05 白川村の大切を繋ぐレスポンスブルツーリズム実践事業	岐阜県 白川村	3%*	• ガイド養成 • 登山道保全活動 等
事例13 箱根におけるサステナブルな観光コンテンツ強化モデル事業	神奈川県 箱根町	5%*	• 箱根トラスト基金へ寄付（登山道整備 等）
事例16 大洲城下町サステナブルツーリズムのシステム構築事業	愛媛県 大洲市	5%	• 地域団体への還元 • ガイド育成へ充当 等
事例06 阿蘇カルデラ「草原の王冠」の好循環な体制構築	熊本県 阿蘇市	5% (又はツアー代金のうち定額で1000円～)	• 牧野組合等へ還元
事例12 学生・地域と連携した循環型人材育成による森林活用保全事業	埼玉県 飯能市	5% (年会費の5%)	• 山道整備 等
事例09 やんばる保全ツアーの磨き上げによる地域好循環創出	沖縄県 国頭村 大宜味村 東村	5% (ナイトツアー代金のうち一人当たり500円)	• ツアー利用エリアの外來植物防除活動
事例04 美しい景観を守る好循環型モデル事業	山梨県 北杜市等	5%	• 北杜市環境保全基金へ寄付

*事務局による試算 (2026年度の再投資目標額/売上)

B 好循環の仕組みづくり

B1 地域資源の利用と保全をつなげる仕組み

地域環境を直接守る活動の組み込み（動植物モニタリング、林道整備、清掃活動等）

コンテンツのプログラム内容そのものが直接的に地域の環境を守る活動

事例09 やんばる3村／やんばる保全ツアーの磨き上げによる地域好循環創出
 やんばる「保全と利用」体験型コンテンツ開発実行委員会

 Point!

- ✓ 旅行者の活動が、実際に地域の環境保護に活かされる仕組みを作ること
- ✓ 旅行者自身が、自身の貢献を実感できる仕掛けを作ること
- ✓ 旅行者の体験を何らかの形に残し、他者に体験を共有するきっかけを提供すること

旅行者の活動と地域環境保護とのつながりを実感してもらう仕組みづくり

地域住民が行ってきた林道パトロールを観光コンテンツ化した、保全体験型ナイトツアー「AKISAMIYO（アキサミヨ）」において、旅行者による地域環境保全体験を提供

- 現地ガイドと一緒にやんばるの森の保全活動に直接携わり、やんばるの自然の奥深さを知るとともに、地域資源を守る取組を体験する。
 - 林道パトロール中に発見した動植物や放置ゴミなどについて、ツアー催行者から提供されたGPS機器情報を用い、その場所と内容を記録。
 - GPSで位置情報を取得する役割、内容を記録する役割などを割り振り、保全活動への参加意識を高めている。
- 記録された情報は、環境省などに後日連携され、自然環境保護のためのデータ収集に活かされる。このことを旅行者にも説明し、自らの活動が「体験」に留まらず「貢献」に繋がることを実感できるようにしている。



保全体験型ナイトツアー「AKISAMIYO（アキサミヨ）」の様子

観光による地球環境への負担軽減（CO2削減、廃棄物削減等）

参加することで地球環境の改善に寄与できる観光プログラム・活動

事例07 放置竹林を再生する「バンブフル(Bambooful)・ツーリズム」の推進
株式会社 薩摩川内市観光物産協会

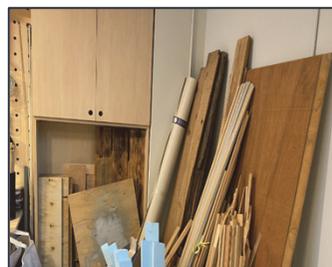
Point!

- ✓ 積極的なリユース・リサイクルや、ゴミの分別を通じ環境への負荷軽減を行うこと
- ✓ 旅行者が環境への負荷軽減に実際に参画することで、その重要性の理解を促すこと

廃材の利用や資材のリユースの促進

ツアーでの廃材の活用・リユース

- ツアー参加者が竹を用いた空間デザインを設計する際、用いる資材（竹そのものや、竹を束ねる縄や板材など）は、なるべく地域から出た廃材を利用。
- 利用した資材は解体・保管し、また別のツアーの際に用いるなどリユースも行うことで、地球環境の保護に努める。



ツアーで活用する地域から出た廃材

ゴミ分別の徹底

ツアー中に排出されるゴミの徹底分別

- ツアー参加者が出すゴミは、分別を徹底。
- 燃えるゴミ・スチール・アルミ・紙・プラスチック・ペットボトル・キャップ・紙パック・箸など、約20程度の分別を行い、可能なものはリサイクルしている。
- 廃材利用やゴミの分別徹底の意味を旅行者にも説明し、それらを実際に体験することで、環境への負荷軽減への意識醸成を図る。



ゴミの徹底分類

事例03 「地域再生ツーリズム」を散居村の保全・継承につなげる仕組みづくり
一般社団法人 富山県西部観光社 水と匠

Point!

- ✓ 地域が取り扱いに困り、そのままでは廃棄するほかないものを、域内の循環システムを作ることで、環境問題の解決とともに付加価値のある製品へと転換すること

そのままでは廃棄されるものを有効利用

伐採後の葉からアロマオイルを作成

- 散居村の景観を保全するため、一定頻度で屋敷林（カイニヨ）に手入れを行い、枝葉を伐採することが必要。
- 伐採後の枝は、かつては家の増築や家具製作、薪燃料として使用されていたが、現在では廃棄されるだけとなっていた。
- そこで、地域の精油メーカーの協力を得て、廃棄される枝を使った精油製品の開発に取り組み、精油から「アロマオイル」や「アロマミスト」を抽出することに成功。
- 製品化の目途が立ち、一般販売を開始している。



カイニヨから作られたアロマオイル

脱穀後のもみ殻の有効利用

- 脱穀後に大量のもみ殻が残り、その廃棄費用が各農協の負担となる課題がある。
- 地域の製陶メーカーと協業し、もみ殻を燃料としてご飯を炊く道具「ぬかべっつい」の商品化を検討中。
- 当事業期間には地域住民を招いたイベントにおいて実演や試食会などが実施された。



「ぬかべっつい」の商品化を検討中

B 好循環の仕組みづくり

B3 地域活性化に向けた貢献

地域経済への貢献（観光消費向上、雇用の創出等）

観光業における雇用や所得の増加。また、観光業以外の産業にも直接・間接的な経済効果をもたらし、地域経済の好循環を生み出す

事例05 白川村の大切を繋ぐレスポンスブルツーリズム実践事業
岐阜県白川村

 Point!

- ✓ コンテンツを造成する際に、地域の様々な事業者を巻き込み、地域内での消費額向上を心掛けること
- ✓ ツアー内で地域事業者との直接会話できる機会を設け、それ自体が体験価値となるだけでなく、購買促進・PRに繋げること
- ✓ ガイドから事前に背景情報の共有を行い、旅行者と地域事業者とのスムーズなコミュニケーションをサポートすること

観光コンテンツへの地域事業者との連携

E-Bikeツアーの行程・コンテンツ内には可能な限り地域の事業者を活用し、観光による地域経済の活性化にも寄与

- ・ ツアーコンテンツの中の昼食時は地域事業者の弁当を活用：地域事業者（飲食店名：次平）が、地域の食材を活用した郷土料理をE-Bikeツアー参加者向けの弁当として提供。
- ・ ツアーコンテンツの中で地域の喫茶店へ立ち寄り：E-Bikeツアー内で、地域の喫茶店へ立ち寄る時間を設け、喫茶店従業員との会話も含めた体験価値を提供、喫茶店の売上向上にも寄与。



地域の飲食店の弁当



ツアー参加者の喫茶店立ち寄り

交流の創出・拡大（地域のファンや交流・関係人口）

旅行者と地域住民の交流の機会を生み出すことで、地域のファンや交流人口・関係人口を創出・拡大

事例04 美しい景観を守る好循環型モデル事業
一般社団法人 八ヶ岳ツーリズムマネジメント

 Point!

- ✓ 移住者ネットワークをコンテンツの開発・整備に参加してもらうことで、交流の場・地域貢献を実現する場を提供し、スムーズに地域コミュニティに溶け込むことにつながっていること
- ✓ 加えて、上記をコンテンツ参加者に伝えることで、ツアー参加者のファン化（＝移住者ネットワークへの加入）を促進していること

ファンクラブとコンテンツ開発との有機的なつながり

移住者向けネットワーク『八ヶ岳ふるさと倶楽部』を設定

- ・ 八ヶ岳エリアに移り住む人々の“ゆるやかなネットワーク”。
- ・ 移住者、2拠点での生活者等、2024年1月時点で約300世帯が加入中。
- ・ 定期的にイベントを開催、会員同士の交流を促進している。

『八ヶ岳ふるさと倶楽部』会員を里山コンテンツ開発に活用

- ・ オオムラサキが生息する里山の再生活動等に取り組むオオムラサキセンターの職員に加えて、八ヶ岳ふるさと倶楽部の会員が里山整備にボランティアとして関わる。
- ・ 里山での活動が、交流の場となるとともに、地域貢献の実現の場となっている。



八ヶ岳ふるさと倶楽部



会員が里山整備に参加

事業の中心なる推進主体（事務局組織）の形成

事業の自走化に向け、長期的かつ安定的に事業を推進できる事務局組織を形成

事例02 エコロッジを拠点にしたロングトレイル活性化事業
一般社団法人 雪国観光圏

Point!

- ✓ 様々な事務局組織の在り方の中から、それぞれの長所・短所を踏まえ、自地域の地理的・経済的・文化的条件にふさわしい組織を構築すること
- ✓ 組織内の役割分担を明確化し、組織図やチャートなどで整理をした上で組織内の関係者間で認識を合わせること

事務局組織の形成

3県7市町村の行政関係者と連携・参画・調整する、地域連携DMOである一般社団法人雪国観光圏が推進主体を担う

本事業のコンテンツ造成・販売に向けて、以下の団体を巻き込み、事務局組織を形成

- ・ 地域の観光協会（雪国観光舎）。
- ・ 民間事業者（株）JTB総合研究所、（株）N37 等）。
- ・ NPO・活動団体・民間事業者・地域住民等で構成されるSCT WG（スノーカントリートレイルワーキンググループ）やSCT実行委員会。

組織内の役割分担

右記のように役割分担を行い、その全体調整・コーディネートは一般社団法人雪国観光圏が実施



事務局組織の体制図・役割分担

事業者間の連携強化、組織の構築

地域全体の取組とするために、事務局組織が主体となり事業者間の連携を強化

事例02 エコロッジを拠点にしたロングトレイル活性化事業
一般社団法人 雪国観光圏

Point!

- ✓ オンライン会議やハイブリット形式の会議等を複数回実施し、より多くの地域事業者（ガイド、宿泊施設等）を継続的に巻き込むこと
- ✓ コアとなる地域事業者を中心に連携強化を目的としてワークショップ等を開催し、そのネットワークを活用して地域全体の意識向上へ繋げること
- ✓ 事務局組織が地域事業者を対象とした先進地の現地体験を企画する等、様々な形式で地域事業者間の連携強化の機会を設けること

事務局組織による事業者の巻き込み・連携強化

一般社団法人雪国観光圏主体で、地域のサステナブルツーリズムの推進に前向きなエコロッジの経営者を中心とした、以下2件のワークショップを開催

- ①エコロッジモデルワークショップ
 - 第1回（場所：オンライン）：モニターツアー内容を基に、エコロッジにおける受入の心構えや課題について協議。
 - 第2回（場所：タイ王国）：エコロッジ先進地タイでサステナブルツーリズムを体験し、実践的な取組をインプット。
 - 第3回（場所：旅館たにがわ）：ツアー販売方法と寄付金（環境協力金）について協議。
- ②ロジックモデルワークショップ
 - 第1・2回：各エコロッジで取り組んでいる要素／取り組んでいない要素等を共有し合い、エコロッジ全体として「取り組むべき要素」を経済・地域文化・環境の枠で70件抽出することで、連携強化に向けた目線合わせを実施。
 - 第3回：各エコロッジが「現在の実践内容と実践の目標」を設定し、数値ベースで共有し合うことで、具体的な連携強化に向けた協議を実施。
 - 今後は上記「現在の実践内容と実践の目標」を基に、エコロッジそれぞれが具体的なアクションプランを策定することで、更なる連携強化を目指す。



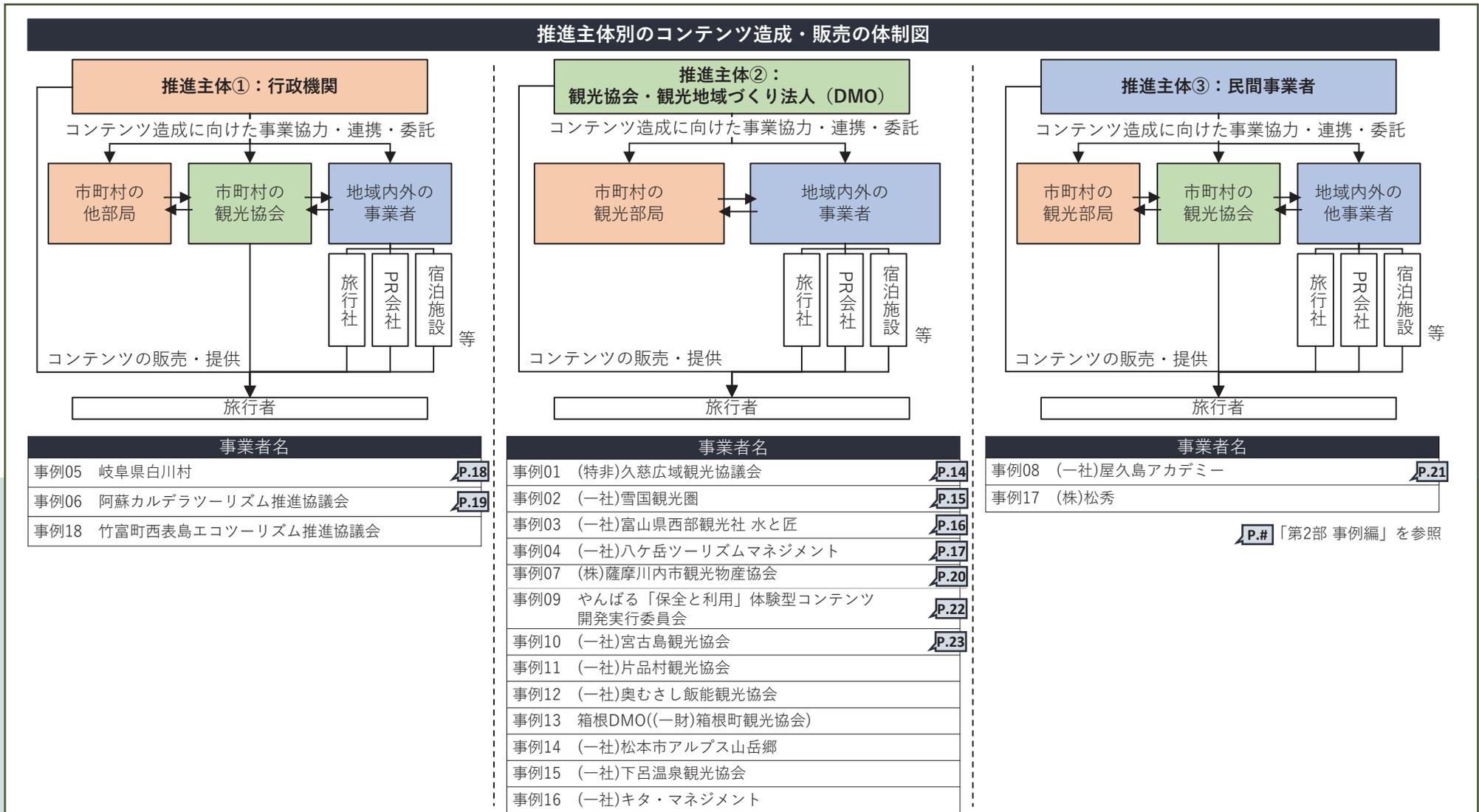
①第2回ワークショップ



①第3回ワークショップ

推進主体別の体制整理

本事業の18地域における推進主体の分類・体制図及び該当する事業名の整理



C サステナブルツーリズムを推進する体制の強化
C2 方針の策定

サステナブルツーリズムに関する取組方針・計画（ポリシー等）の策定

事業の推進主体が中心となり、地域のサステナブルビジョン・ポリシーを明確にした方針/計画を策定

事例01 みちのく潮風トレイルを活用したトレイル&トレイン
特定非営利活動法人 久慈広域観光協議会



Point!

- ✓ 地域全体でビジョンを共有することで、各事業者・自治体としての独自性は許容しつつも強固なコンプライアンス・ガバナンス体制が構築でき、地域全体としての競争力強化につながる
- ✓ 外部有識者の知見と地域事業者・自治体・観光協会等の経験を有機的に組み合わせ、取組可能なポリシーとして纏めている

『みちのく潮風トレイル』サステナビリティポリシー

みちのく潮風トレイルに関連する多種多様なステークホルダーを対象としたサステナビリティポリシーのひな型を作成

- 4県29市町村に跨る多種多様なステークホルダー（事業者、自治体、観光協会等）のための地域共通フレームワークを定義。
- みちのく潮風トレイル憲章を上位概念とし、個別事業者が具体的なサステナビリティポリシーに落とし込むための要素を整理。

多面的な視点からの磨き上げ

- 専門家を招聘し、本ポリシー作成に際したアドバイスをもらう。
- コアとなる自治体・事業者・観光協会の担当者や複数回にわたるワークショップの実施。

2. 持続可能性の方針（サステナビリティ・ポリシー）

地域コミュニティ

2. 持続可能性の方針（サステナビリティ・ポリシー）

安全と危機管理

- 自然環境や危機管理は自治体と協働して実施する。

テーマ	具体的な施策	達成目標
① 危機管理計画	① 事故や危機発生時の対応マニュアルの作成	① 1年
② 危機管理訓練	② スタッフやボランティアに対して安全確保に関する訓練の実施	② 年2回
③ 危機管理対策	③ 安全のための備付け品や備品の確保	③ 1年

ポリシー（案）



ワークショップの様子

事例10 島と友（ゆー）を結ぶローカルサステナブルツーリズム
一般社団法人 宮古島観光協会



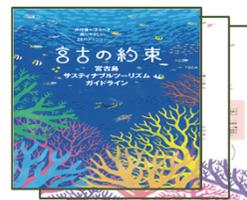
Point!

- ✓ 地域のサステナブルツーリズムに参画する関係者（旅行者・事業者・住民）それぞれを対象としたガイドラインを策定・発信すること
- ✓ ガイドラインを活用し、サステナブルツーリズムの実現に繋がる行動変容を促す取組（独自の認証制度立上げ等）を検討・実施すること

サステナブルツーリズムガイドラインの成案・発信

昨年度の本事業で「宮古島サステナブルツーリズムガイドライン」を策定し、2023年1月に成案。さまざまな媒体・ルートで発信中

- 島を守りながら繋げていくため、それぞれの行動変容を促す目的で、旅行者・事業者・島民向けのガイドラインを策定。
- 「Meets More MIYAKOJIMA」（宮古島観光協会公式情報サイト）への掲載やポスター、旅行者向けリーフレット、フリーペーパー等でガイドラインを発信中。



ガイドライン



フリーペーパーでの発信



ポスター

ガイドラインに基づく認証制度の立上げ

ガイドラインを遵守するマリン事業者を認証・周知するための認証制度を立上げ

- 宮古島観光協会、自治体、各種共同組合等で構成される宮古島サステナブルツーリズム連絡会が、マリン事業者向け認証制度を立ち上げた（2024年3月1日から制度開始）。
- 認証事業者へは認証マークが付与され、「Meets More MIYAKOJIMA」等で紹介・周知される。



認証マーク

C サステナブルツーリズムを推進する体制の強化

C3 意識統一と担い手の育成及び意識醸成

行政・関係事業者の意識統一・強化及び担い手の育成

事業に参画する自治体、DMO、関係事業者が取り組むべきことについて理解を深めるとともに、サステナブルツーリズムの担い手を育成する

事例01 みちのく潮風トレイルを活用したトレイル&トレイン
特定非営利活動法人 久慈広域観光協議会

 Point!

- ✓ 座学形式だけでなく、アウトプット中心の部会を組み合わせることで、参加者の主体性の醸成に繋げること
- ✓ 複数回の研修や部会を設定することで、知識の定着化やステークホルダー間の温度差を徐々に埋めること

集合研修・関係部会を組み合わせた意識醸成プログラム

集合研修の実施：

- ・ サステナブル勉強会やガイド研修等、みちのく潮風トレイルとしての共通課題から選定して集合形式での研修を複数回開催。

関係部会の設立・開催：

- ・ 具体的なアクションとするために、事業者毎の部会を複数開催。
 - 寄付型ツアー造成部会
 - インバウンド対応部会
 - 受け入れ環境整備部会

インプット中心の研修とアウトプット中心の関係部会の組み合わせ

- ・ 当初は多種多様な関係者毎に温度差が感じられていたが、インプット中心の研修とアウトプット中心の関係部会を組み合わせることで、関係者全体としての理解度向上及び意識醸成を実現。



集合研修の様子



関係部会の様子

地域住民の意識醸成

地域住民のサステナブルツーリズムの認知・意識・理解度向上に向けた取組を実施

事例02 エコロッジを拠点にしたロングトレイル活性化事業
一般社団法人 雪国観光圏

 Point!

- ✓ 地域内外の観光専門家を招いたセミナーを開催するなど、サステナブルツーリズムにおける専門家レベルの知見を地域住民にインプットすること
- ✓ 一方的な知見のインプットのみならず、参加者同士が意見を共有・話し合える場を十分に設けることで意識・理解度向上へ繋げること

住民セミナーの開催

地域外の観光専門家を講師に、地域住民を対象（ガイドやエコロッジ経営者も含む）とした、オンライン住民セミナーを合計3回実施

- ・ 住民セミナーは本事業でコンテンツ造成にも関わった、地域外の観光専門家（JTB総合研究所）を講師に招き、住民セミナーを開催。
- ・ 住民セミナーでは以下のアジェンダを設定。
 - サステナブルツーリズムとその背景
 - 雪国観光圏によるサステナブルな取組
 - 観光庁サステナブルツーリズム実証事業報告
 - 責任ある旅行者の存在
 - 旅行者との接点づくりによる地域住民の意識・理解度向上及び地域一体となった受入体制の強化

様々な意識・考えを持つ参加者を巻き込み、それぞれが感じる課題の共有やディスカッション等を通じて、参加者の意識・理解度向上を実現



住民セミナーで活用した資料

おわりに

コロナ禍を経て、国内外の観光需要は急速に回復しつつある中で、持続可能な観光への関心が急速に高まるなど、観光の形も変わりつつあります。そのような中で、地域の大切な資源を保全しながら観光に活用し、「そこでしかできない体験、そこでしか感じられないもの」を観光として提供することで、地域の魅力を継承していくことが期待されます。

そのためには、観光コンテンツとしての魅力をしっかりと磨き上げ、自走化させていくことがまず必要です。そして、一過性の観光コンテンツづくりにとどまるのではなく、その観光コンテンツの基盤を支える、地域の目指す姿を示すビジョンをつくり、地域住民を含め地域に関わる様々な方を巻き込んで、地域に根差した取組としていくことが重要です。

さらに、こうした地域資源の保全や地域づくりに旅行者自身が貢献できることが今後ますます重要になります。また、脱炭素や循環経済、あるいは生物多様性保全といった地球環境保全への寄与については必要最低条件として求められることとなります。これらの取組をわかりやすい形で適切に情報公開を行い、見える化を図っていくことが、今後求められることとなります。

そうした取組に支えられた旅行は「本物の体験」として、インバウンド旅行者を含め高く評価されることになるでしょう。

そんな取組が、日本各地でより一層加速することを、心から期待しています。

本事例集は、「サステナブルな観光コンテンツの実践に向けた事例集（令和5年3月 観光庁）」を踏まえながら、観光庁「令和5年度サステナブルな観光に資する好循環の仕組みづくりモデル事業」で実施した内容に基づいて作成しました。本事業に関わられた全てのみなさまに感謝いたします。



本事例集は、観光庁「令和5年度サステナブルな観光に資する好循環の仕組みづくりモデル事業」での実施内容に基づいて作成しました。同事業は、有識者委員及び専門家人材（コーチ）の方々のご協力をいただいて実施しました。

有識者委員	五十音順	敬称略	(○：座長)
	稲増 佑子	株式会社TOKI 代表取締役	
	梅澤 高明	KEARNEY 日本法人会長／CIC Japan 会長	
	加藤 久美	和歌山大学 観光学部観光学科 教授	
	小林 英俊	北海道大学観光学高等研究センター 客員教授	
	佐々木 豊志	青森大学 総合経営学部 教授／観光文化研究センター長	
○	下村 彰男	國學院大學 観光まちづくり学部 教授	
	深谷 信介	ノートルダム清心女子大学 人間生活学部 教授	

専門家人材（コーチ）	五十音順	敬称略
	岡田 美奈子	追手門学院大学 地域創造学部 教授／ 和歌山大学 観光学部 非常勤講師／国際観光学研究センター 客員フェロー
	岡本 岳大	株式会社wondertrunk & co. 代表取締役共同CEO
	奥 敬一	富山大学 学術研究部芸術文化学系 教授
	海津 ゆりえ	文教大学 国際学部国際観光学科 教授
	久保 竜太	一般社団法人サステナビリティ・コーディネーター 協会 業務執行理事
	新谷 雅徳	一般社団法人エコロジック 代表理事
	永谷 亜矢子	立教大学 経営学部 客員教授／株式会社an 代表取締役
	ポール クリスティ	Walk Japan CEO / The Japan Travel Company株式会社 会長
	山本 牧子	株式会社Finesse Hospitality Management 代表取締役
	渡辺 彩子	ミッドメディア有限会社 取締役 ビジネスディレクター

令和5年度サステナブルな観光に資する好循環の仕組みづくりモデル事業
観光庁 観光地域振興部 観光資源課

